

目 次

歳時記	1
今月の主な動き	2
ごあいさつ 就任・退任のごあいさつ	4
喫煙室 新人のプロフィール	5
統計の窓 統計調査の「合理化」	11
調査から 事業所統計調査の概要	13
商業統計調査の概要	15
主要経済指標	18
人口	
1. 世帯、人口および人口移動	20
2. 市町村別人口と世帯	20
労働	
3. 産業別賃金指数(現金給与総額)	22
4. 産業別雇用指数	22
5. 産業別労働時間(総実労働時間)	23
6. 職業紹介状況	23
農業	
7. 農産物の平均販売価格	24
鉱工業・エネルギー	
8. 鉱工業指数(季節調整済指数)	25
9. 産業別電力消費量	28
10. 石油製品販売量	28
金融・経済	
11. 金融機関別実質預金・貸出残高	29
12. 県内金融経済	30
13. 企業倒産状況	30
統計の窓 平成3年度主要統計研修等実施計画	39
新着資料案内	40
統計ニュース	41

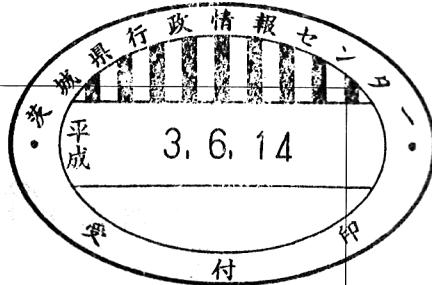
利 用 上 の 注 意

1. 統計表の数値は原則として単位未満は四捨五入
2. 「年」は暦年、「年度」は4月から翌年の3月まで
3. 記号
- | | |
|------------------|--------------------|
| — 零または該当数字のないもの | r 訂正数字 |
| 0 該当数字が掲載単位未満のもの | △ 減少または出超 |
| … 不詳のもの | x 秘密保持のため掲載をひかえたもの |
| p 暫定数字 | |

歳

時

記



新 緑

風薰る5月、野山は新緑に燃え、まばゆいほど命の喜びにあふれ、太陽も力強い陽光をそぞぎ始めます。人生ならさしづめ青春真只中といえるでしょう。

5月5日は子供の日。昔は端午の節句といって男の子のお祝でした。現在でも、鯉のぼりを立て、武者人形や鎧兜を飾り、柏餅・ちまきやしょうぶを供え健やかな成長を願う家庭もあります。ちなみに、子供の日となったのは昭和23年からです。

5月のおもな行事

- 8日 商業動態統計調査説明会(東京都)
- 16日 景気動向調査全国説明会(東京都)
- 17日 毎勤統計全国統計主管課長会議(東京都)
- 22日 農林業センサス抽出集計関プロ打合せ会議(長野市)
- 23日 事業所・商業統計調査製表事務地方別会議(東京都)
- 27日 関東甲信静ブロック統計主管課長会議(東京都)
- 27~28日 統計調査員研修会(旭村)
- 29日 市町村民所得推計事務説明会(水戸市)

さ

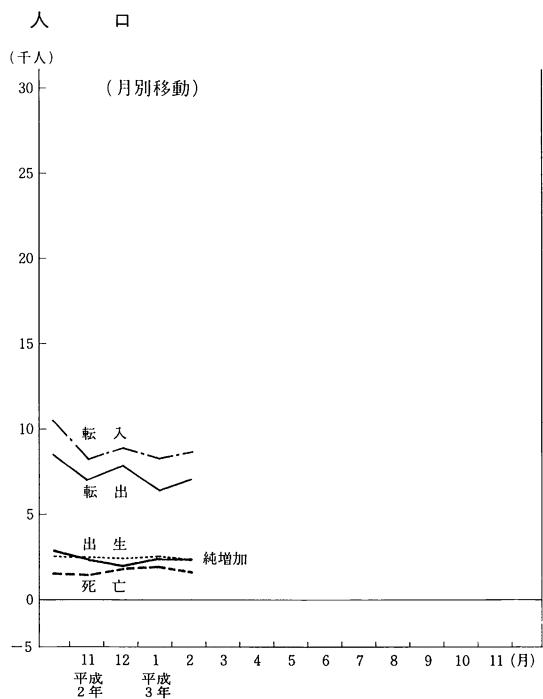
い

じ

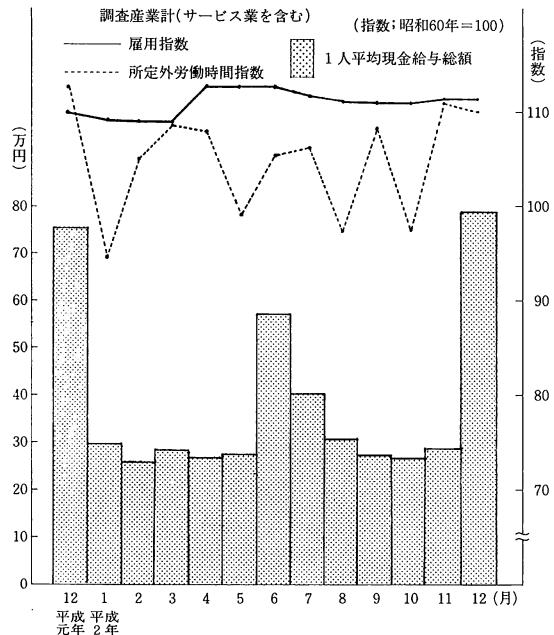
き

●今月の主な動き

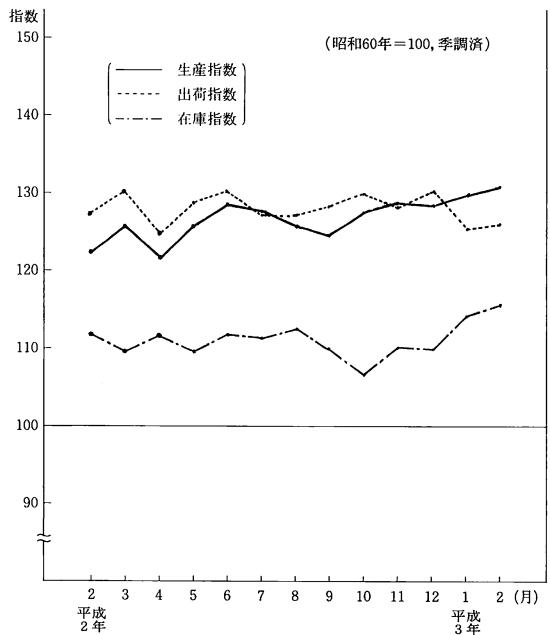
今月の主な動き



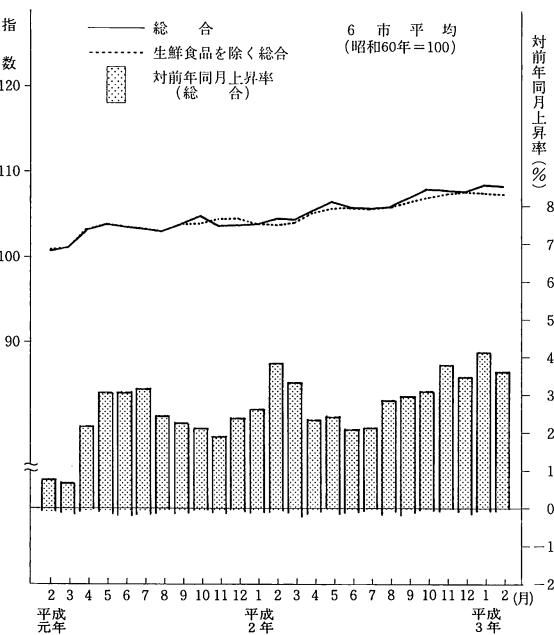
賃金・労働時間・雇用



鉱工業指標(生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



今月の主な動き ●

主な動きのあらまし 企画部統計課

■ 人口(3月1日)

本県の人口は、2月中に2,251人増加し、3月1日現在で2,856,840人(男1,424,985人、女1,431,855人)となった。内訳は、自然動態で552人(出生2,241人、死亡1,689人)増加し、社会動態で1,699人(転入8,813人、転出7,114人)増加した。対前年同月と比べると21,554人(0.76%)の増加

である。

市町村別では、増加が16市44町村、減少が4市21町村、増減なしが3町村である。

世帯数についても2月中に1,137世帯増加し839,288世帯となった。

■ 賃金・労働時間・雇用(12月)

(注) 毎月労働統計調査の対象事業所の抽出替えとそれに伴う指標補正のため平成3年1月分以後について、6月に公表となる。

1. 平均賃金の推移

12月の現金給与総額は本月が賞与等の支給月であるため、調査産業計で788,066円と前月に比べて大きく変動している。前年同月比は4.4%増(前月は5.3%増)であった。このうちきまって支給する給与は272,387円、前年同月比3.8%増(前月は4.7%増)であった。また、きまって支給する給与のうち所定内給与は239,011円で前年同月比3.8%増(前月は4.8%増)であり、超過労働給与は33,376円で前年同月比3.8%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は前年同月比0.3%増であった。

2. 労働時間

12月の総実労働時間は調査産業計で174.7時間、前年同月比2.9%減(前月は1.2%減)であった。このうち所定内労働時間は155.1時間で前年同月比3.0%減(前月は1.3%減)であった。

また、所定外労働時間は19.6時間、前年同月比は2.0%減(前月は0.5%減)であった。

3. 雇用の動き

12月の雇用の動きを常用雇用指標によってみると前年同月比1.4%増(前月は1.5%増)であった。

※この地方調査の結果は事業所規模30人以上を対象として公表しています。
なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。

■ 鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(2月分)

本県における平成3年2月の“鉱工業指数”(昭和60年=100)は、季節調整済指数で、生産が131.4、出荷が126.3、在庫が115.9で、前月比は、生産が1.1%の上昇、出荷が0.1%の上昇、在庫が1.0%の上昇であった。

前年同月比(原指数)は、生産が6.9%の上昇、出荷が△0.8%の低下、在庫が3.6%の上昇であった。

業種別に前月比をみると生産では、精密機械工業、電気機械工業、一般機械工業等が上昇し、鉱業、輸送機械工業、石炭・石油製品工業、繊維工業等が低下した。出荷では、精密機械工業、化学工業、

電気機械工業等が上昇し、鉱業、輸送機械工業、鉄鋼業等が低下した。在庫では、一般機械工業、鉱業、プラスチック製品工業等が上昇し、輸送機械工業、石炭・石油製品工業、繊維工業等が低下した。

特殊分類別にみると生産では、資本財、耐久消費財等が上昇し、その他用生産財、建設財等が低下した。出荷では、建設財、耐久消費財等が上昇し、その他用生産財、資本財等が低下した。在庫では、資本財、建設財が上昇し、その他用生産財、非耐久消費財等が低下した。

■ 消費者物価指数(2月)

平成3年2月の茨城県消費者物価指数(6市平均)は、総合で108.4(昭和60年=100)となり、前月比0.2%の下落、前年同月比3.7%の上昇となった。

今月上がった主な項目……教科書・学習参考書8.2%，

乳卵類3.4%，野菜・海草2.8%，履物類1.7%

今月下旬がった主な項目……他の光熱△6.7%，シャツ・

下着△4.9%，衣料△4.5%，果物△3.4%，保健医

療用品・器具△1.9%

生鮮食品を除く総合は107.3となり、前月比0.3%の下落，

前年同月比3.5%の上昇となった。

費目別指標 (昭和60年=100)

区分	指數	上昇率(%)		区分	指數	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総 合	108.4	△0.2	3.7	保 健 医 療	105.7	△0.4	0.8
食 料	109.6	0.6	4.2	交 通 通 信	104.7	△0.4	2.3
住 居	118.6	△0.1	5.1	教 育	124.9	0.3	6.9
光 熱・水 道	93.3	△0.6	6.0	教 養 娯 楽	111.7	0.1	3.7
家 具・家 附 用 品	101.1	0.1	1.5	諸 雜 費	106.5	0.0	0.7
被 服 及 び 履 物	107.3	△3.3	4.5	生鮮食品を除く総合	107.3	△0.3	3.5

ごあいさつ



就任のごあいさつ

茨城県企画部統計課長
茨城県統計協会副会長

前田常男

このたび、4月1日付けをもちまして統計課長を拝命致しますと同時に、統計協会副会長に就任することになりました。

近年、社会経済が高度情報化、国際化、高齢化等と複雑多様化するなかで、統計は的確な現状認識と将来予測に不可欠な資料として行政のみならず、あらゆる分野でますます重要なものとして注目を集めているところであります。

市町村統計担当者をはじめ統計関係者皆様には、日頃、統計行政に対し深いご理解と絶大なご尽力をいただき、統計調査をはじめ各種統計事業が円滑に推進され、立派な成果をあげていることに対し敬意を表するものであります。

統計資料は、県民の皆様のご協力のもとに多くの労力、経費をかけて得られた貴重な財産であり、多くの方々に利用されて初めて価値の出るものであります。統計の作成者として利用者のニーズを的確に把握し、正確な統計をタイムリーに提供することが大切であると考えております。このために私も統計関係者の皆様のご協力をいただきながら、微力ではございますが統計行政の発展のために努力してまいりたいと思います。

本年度も、商業統計調査と事業所統計調査、新規の県民生活地域調査、統計データフェアの開催等多くの事業がございます。特に、商業統計調査と事業所統計調査は、統計調査の合理化の面から本年は7月1日現在で初めての試みとして同時に行われますが、市町村等におきましては事務が一時期に集中するという面もあるかと思いますが、趣旨をご理解いただきご協力をよろしくお願ひいたします。

最後に、市町村、統計調査員をはじめ統計関係者の皆様には、本県統計事業の発展のために一層のご尽力とご支援をお願い申し上げまして、就任のあいさつといたします。



退任のごあいさつ

茨城県企画部統計課長
前田克己

磯田克己

このたび、4月1日付の人事異動で高齢福祉課へ参ることになりました。

統計課在任中は、市町村統計担当者をはじめとする統計関係者の皆様には、温かい御支援と御協力をいただき、お陰様で大過なくその職責を全うすることができましたことに対し心からお礼申し上げます。

1年間という短かい在任期間ではございましたが、この間、厳しい統計調査環境のもとで、市町村の統計担当者、統計調査員の皆様が、調査の第一線で日夜努力されている実情を知り、その御労苦に対し敬意を表するとともに、統計業務発展のために大変心強く思っております。

昨年度は、最も大規模な調査である国勢調査及び農業基本調査、あるいは統計大会、統計グラフコンクール等多くの事業につきまして、統計関係者の皆様の大変な御尽力により円滑に推進できましたことに深く感謝申し上げます。

本年度は、事業所統計調査と商業統計調査の同時実施、新規の県民生活地域調査、統計データフェアの開催など多くの事業が実施されますが、統計関係者の皆様には、統計の重要性を御認識いただき、ますますの御活躍とこれら事業の成功を祈念申し上げる次第であります。

今後とも一層の御厚情と御指導を賜りますようお願い申し上げまして、お礼と退任のごあいさつとさせていただきたいと存じます。

新人のプロフィール

茨城県の平成3年度定期人事異動により、4月1日付で新たに統計課勤務となられた方々に、自己紹介を兼ねてご執筆いただきましたのでご紹介いたします。



統計課勤務になって

庶務担当主事
白井厚治

この度の定期異動により統計課勤務になります。
よろしくお願ひ致します。

前の職場(潮来保健所)では結核・難病・母子の各医療を3年間、衛生統計を1年間担当しました。振りかえると、医療では結核患者の想像以上の多さや、未だに原因不明で治療方法も確立していない病気の多さに驚かされたり、衛生統計では2年、3年、5年の周期で行なわれる各調査を僅か1年で総て担当できるという幸運(?)に恵まれたりと、なかなか充実した4年間であったと感じております。

さて、統計課では、主に支出を担当しますが、私はこれまで経理等の担当をしたことがなく、県職員生活10年目にして初めてお金を扱うこととなり、今更ながら、自分の無知に涙し、無能に汗しております。

また、ここで趣味について話をさせて頂きますが、私の趣味は航空自衛隊機の写真を撮ることです。子供のころに見たジェット戦闘機の迫力や美しさに魅せられ、社会人になってからは、日本全国の基地を年間10ヶ所ほど回るようになってしまいました。皆様も機会がありましたら、是非一度ご覧いただきたいと思います。

最後になりましたが、一日でも早く皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、よろしくお願い致します。



私のジョギング

普及指導担当係長
木村泰昭

しばらく休んでいたジョギングを再び始めることにした。別に切羽詰まつた訳ではないが、年を

とるについて、体が重くなっていくような気がしてならないからである。

休みの日には朝早く走ることにしている。アパートから桜山公園を通り千波湖畔を1周してくると大体6～7キロメートル位にはなる。朝は体が動いていないので早く走ることはせず、ゆっくりとしたペースで走る。同じ仲間がすれ違うと軽く会釈する。以前だと朝のあいさつをしながら声を掛け合っていたのだけれど今は走る仲間が増えたせいもあるのだろう。

千波湖畔を1周すると足が重くなるのでこれからアパートへ戻るのが一苦労である。上り坂のうえ舗道を走ることになるから歩くわけにはいかない。呼吸を整えながらリズムを使って駆ける。アパートの周囲には芝生の場所があるので、そこで軽くストレッチングと整理体操を行い、家に戻りシャワーを浴び汗を流す。とても気持がいいものである。

居間では娘が笑顔で迎えてくれる。せめてこの娘が小学校を卒業するまでは、若い父親でありたいと願いつつ頑張っているところです。

最後にこの度の異動により、県立消防学校から統計課にお世話になることになりましたので、よろしくお願ひします。



統計課に想う

普及指導担当係長
城石邦夫

このたびの定期人事異動によって統計課に勤務することになりました。統計課勤務は初めてですが、今から15年前に統計課のあるこの第2付属庁舎の同じ部屋(当時は水戸地方福祉事務所)にいましたので、窓外の風景がなつかしく思われます。新しい職場というものは仕事のことなどどれ一つとっても、不安なものなので以前過ごした部屋にふたたび通うということは、当初私を気分的に随分楽してくれました。世の中には一度会うと名

〈喫煙室〉

前と顔を覚えてしまう人もいるようですが、どうも私にはこれが苦手で50人を数える統計課では1ヶ月以上たった今でも座席表をながめている状態です。歴史の年号を覚えるように意味付けることも不可能なので困ってしまいます。コンピューターのように一度入力したなら削除命令をするまで記憶していくらいいのですが。

ところで、統計課の仕事といえば誰でも知っているのが国勢調査ではないでしょうか。昭和の時代は、×0年・×5年で分かりやすかったのですが平成になって区切りがわるくなってしましました。先日バングラディシュを襲ったサイクロンによる被害の模様をTVなどで見ましたが、死亡者が万単位で日を追って増加するなど正確な人口は把握出来ないだろうと思ったのは私だけではないでしょう。人口動態がつかめないとということは、国民の生活が把握できていないということなので、行政の方向も見出せないことになってしまいます。食べる店を選ぶのに迷ってしまう日本と食べる店のない国、生れた国によって人の一生は根底から激しく変わってしまうものだとつくづく考えさせられました。人間どちらが仕合せかは最後までわかりませんが、食物のないこと、これは不仕合わせです。戦争の影響による難民生活などの様子を見るにつけて統計と結びつけ考えてしましました。最後にフランスのジョークをひとつ。

患者「先生、私の病気は治るでしょうか。」

医者「治りますとも。心配はいりません。統計によると、この病気は100人に1人は助かるという割合になっており今まで99人患者が来てその人達がみんな死んでいますから、100人目のあなたは必ず治りますよ。」



私の名曲15選

分析情報担当課長補佐

堀江秀男

このたび統計課で仕事をすることになりました。どうぞよろしくお願ひします。
さて、私の趣味の一つに音楽鑑賞がありますが、

思い出の曲又は好きな曲を何曲か選び自己紹介にかえさせていただきます。

私が買った最初のレコードはチャイコフスキーの交響曲4番でした。この曲とともに若い頃よく聴いた曲に、ブームスの交響曲1番及び4番、ドヴォルザークのチェロ協奏曲、マーラーの「大地の歌」などがあります。

大阪万博の年(1970年)、上野の東京文化会館でカラヤンがウィーンフィルを指揮した時のプログラムがシューマンの交響曲4番でしたが、この曲は今でも好きな曲の一つです。

同じ時期、ソ連のボリショイオペラの東京公演で、ムソルグスキーのオペラ「ボリス・ゴドウノフ」を聴きました。出演者、舞台装置等本格的でまさに絢爛豪華という感じで、初めてオペラの面白さがわかりました。

最近では、水戸市の芸術館でヘルマンプライによるシューベルトの歌曲集「冬の旅」の独唱会、県民文化センターでドイツのゲバントハウス管弦楽団等によるバッハの「マタイ受難曲」を聴きました。録音でなく肉声での「冬の旅」には新たな感動を覚え、また初めて聴いた「マタイ受難曲」はすばらしく、バッハの他の作品一例えば「無伴奏チェロ組曲など一に目を向ける良い機会となりました。

最後にあと5曲をあげて15選といたします。
ベートーヴェン・交響曲3番「英雄」(フルトヴェングラー指揮)、同ヴァイオリン協奏曲、モーツアルト・ピアノ協奏曲24番、シューベルト・弦楽四重奏曲「死と乙女」、マーラー・交響曲1番「巨人」。



一弓入魂

分析情報担当主任

和田弘俊

この度の定期異動で農地部農地管理課から統計課へまいりました。よろしくお願ひ致します。

県職員となって今年で11年目、そのうち8年間を農地行政に携わってきました。農地行政におい

喫煙室

では、許認可及び不服申立て、裁判等の対個人の業務でした。毎日一般個人や農業委員会等の機関からの問い合わせや苦情の電話の対応に追われ、その度に、六法全書や民法の参考書を片手に、無い知恵を絞っていました。統計的な仕事については昨年一年間、農地法に係る許認可の件数・面積等を電算によって処理するという業務を担当しましたが、途中、データが一万件も消えてしまったりデータの入力原票の記入方法に誤りがあったりして、データテープの国への提出予定をはるかに過ぎても完了せず、結果的に不充分なまま完成させてしまったという苦い経験があり、これからの業務がきちんとできるかどうか不安に思います。

さて、私は県庁弓道部の末席を汚しております。弓道は、いかに自分を高めるか、自分との勝負の競技であります。どんなに的中率が高くても、精神的な高まり、地道努力があらわれなければ評価されません。また、そういうものが充実すれば自ずとの的中率が高まるものだと言われます。このことは、数字相手に悪戦苦闘する統計業務とも相通じるのではないかと(勝手に)思い、「一球入魂」ならぬ「一弓入魂」の精神で頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

はじめまして

分析情報担当主事
片 岡 唯 明

社会人としての第一歩が統計課より始まることとなりました。皆様方には何かと御迷惑をおかけするとは思いますが、自分なりに精一杯努力致しますのでよろしくご指導のほどお願いします

私は学生時代、パソコンの前に座っている人を見ると思わず尊敬していましたが、統計課勤務となって、コンピューター等に関係する仕事があるので、果たして自分にできるのだろうかという心配でいっぱいです。しかし、それをふきはらうかのように4月、5月とコンピューター関係の研修の嵐がやってきます。とてもうれしい限りです。これからは、パソコンとお友達になれるくらいに

頑張りたいと思います。ただ、一週間も続けてパソコンの前に座っている時間が多くなると、頭の中が爆発しそうで、帰りの自動車の運転で自分の性格が変わってしまうので気を付けたいと思います。

話は変わりますが、統計課ではスポーツ活動がとても盛んなようですが、私は学生時代ほとんど運動はやっておらず、たまに友達とちょっととしたスポーツをすると、友達は翌日「体が痛い」と言います。私には全く痛みがありません。心の中で「なんだ、自分の体はまだ若い」と思っていると、その筋肉痛が次の日にやってくるのです。自分の体が若くないとは信じたくありません。こんな私ですが、各課対抗等には積極的に参加して、何かのお役に立てるよう頑張るつもりでおりますのでよろしくお願ひします。

ルアーフィッシング

人口労働担当課長補佐
河辺芳雄

この度の異動で水戸県税事務所から統計課へ勤務することになりましたのでよろしく御指導、御協力をお願ひいたします。

私の趣味は魚釣りです。釣りの楽しさは釣れるまでの期待感と釣れた一瞬の衝撃的な出合にあり20数年続けております

最近ルアーフィッシングに手をのばし始めたところです。これは今までのエサ釣りとは違った魅力があります。例えば、エサ釣りでは考えにくかった魚がかかったり、生きたエサの必要がなくなったことです。

ルアーとは「オトリ、誘惑する」という意味です。

釣る魚に応じ金属、プラスチック、ゴム、ビニール、羽毛等の材料でつくられた釣りバリを使用しエサの役目を果すもので今迄なじんで来たエサ釣りとは異質なものといえます。それはルアーフishingが魚が食いつくのを待つという消極から何とか食いつかせようとする努力と積極性が必要となります。

ルアーを投げては引き引いては投げ、魚に如何

にして興味をそらせ就餌欲を起こさせるか、それには一定の速度か変速させて引くのが良いか、習性は、どんな色、大きさは、などと複雑である反面、簡単な釣りでもありますから樂しさは十分にあります。

まだ始めたばかりで釣果の方は良くありませんが大物スズキの釣れることを期待して暇をみつけではサオを振っているこの頃です。



統計課勤務になって

商工農林担当主任
野口高雄

今度の定期異動で統計課勤務となりました。どうぞよろしくお願ひします。

前の職場は、潮来土木事務所で工事経理を4年間担当していました。私は季節労働者だといいながら、3月から4月にかけて毎日残業したことも、異動後1ヶ月たった今では、懐しい想い出です。しかし、仕事にいささか疲れてきたので、異動が決まり、ホッとした気持ちがしたのも事実です。

異動になり一番変化したことは、生まれて初めて初めて電車通勤となったことです。電車やバスの通つてない田舎に生まれた私には、毎日が貴重な経験となっています。朝の水戸駅の混雑も、慣れている人には何でもないことでしょうが、私には何と人がたくさんいるんだろうと思い、驚くべきことのひとつです。また、列車のなかでの高校生の元気なことも、うるさいと思いつつも羨ましいと思うことのひとつです。正直言って、週の後半になると不慣れからか疲れが出てきますが、今迄にない経験から色々なことを見つけたり感じることができたらいいなと思っています。

統計課では、事業所統計調査の電算担当となりました。電算関係は、全く経験がないので、皆さんにご迷惑をおかけすることとなると思います。しかし、事業所統計調査は、5年に一度の大切な統計調査なので、精一杯頑張って統計調査を仕上げたいと思いますので、御指導、御協力のほどどうかよろしくお願ひいたします。



よろしくお願ひします

商工農林担当主事
大信保典

このたびの定期異動により、統計課勤務となりました。よろしくお願ひします。

統計課は3箇所目の職場となります。今まで庶務・経理の仕事を担当していたのであまり出張の機会がなく、ほとんど一日中机に向かって仕事をしていることが多かったのですが、統計課では外に出ることが多いということで楽しみにしています。これから、仕事のうえで市町村の職員・調査員・調査をお願いする企業の人等多くの人と接する機会が増えると思いますが、今まで仕事のうえではあまり人と接することがなかった私にとっては貴重な経験となることだと思います。

統計課は部屋がふたつに分かれているので、まだ顔と名前が一致しない人がいます。ということは私の名前も知られていない？これではいけないということいろいろな行事やスポーツ等に積極的に参加していきたいと思います。といってもあまりスポーツは得意ではなく、特に統計課で力を入れている野球は苦手なのですが、周りに練習には参加しなくてはならないというような雰囲気があるので参加することに意義があるということをがんばりたいと思います。また、前の職場では1つも減らすことのできなかったゴルフのハンディをぜひ減らしたいと思います。



喫煙室にちなみ

商工農林担当主事
糸賀一史

この度、新規採用で統計課勤務となりました。まだ仕事の内容も把握しきれず皆様に何かと御迷惑をおかけすることと思いますが、早く仕事に馴れるよう努力致しますので、どうぞよろしくお願ひします

ところで、私は煙草を吸います。朝起きがけの

1本目から夜歯みがき前の最後の1本まで、1日に1箱程度、多い時には2箱消費します。酒の席などがあるとそれこそもう5本、10本と増えていきます。過去、私は体に悪い、絶対良いはずがないと自分に言いきかせ、一大決心をし禁煙を始めましたが、あえなく2日と5時間で挫折、1週間続けられれば『ビール飲み放題』と固く約束を交した友人に、逆におごるはめになり、大ジョッキを片手に持つ友人を横目に「身の程知らずな挑戦は二度とするまい」と、心に誓ったことがあります。

しかし最近になって、正確にいようと勤めに入つてから煙草の本数も激減、とまではいかないまでも減少傾向にあります(飲酒の機会は反比例していますが…。)。そのせいか体重も少しづつ増え始め、標準体重に近づきつつあります。

日本たばこ産業ではありませんが、喫煙なさるみなさん、健康を損なうおそれがありますので、吸いすぎに注意しましょう。

最後に、実を言うと私はお酒も好きです。給料日以降10日間ぐらいまでなら、快くお誘いを承りますので、よろしくお願ひ致します。

私の庭

消費生活担当係長
菅 谷 松 枝

「隣りの芝生」という題名のテレビドラマがあったような気がします。「隣りの芝生はあおい」ということわざからきたものと思われます。

美しく見える芝生も、芝生のうえに立ついろいろな欠点が見えてきます。一年手を抜くと雑草との戦いとなり、今年はその年となってしまいました。ゴルフ場のグリーンのようにとはいかないまでも眺めて美しく見えるくらいの芝生にしようと休日は忙しくなり、肥料をほどこしようやくこの作業から開放されます。私の庭の芝生です。

まだ寒風が吹き荒れる日が続いているというのに椿の花の蕾が次第にふくらんで赤い花弁の一部分が見え始め、一本のしだれ梅がもうそろそろ春

が来るよといわんばかりに可憐なピンクの花を咲かせます。若葉の萌える季節になるとカエデ類が一斉に春をつけ、木々の若葉は空からの光を受けて跳ねているようです。見ていると心がなごんできます。

シャクナゲ、ボタン、クレマチス等々花盛り、今が一番にぎやかな時です。ほのかな薫りをしばらくの間吸っていると平和で明るい気分に導かれます。花々を訪れる蜂も歓びを感じているように急がしく飛び廻り、鳥たちも私も仲間といわんばかりに訪れ、歓喜の歌が聞こえてくるようです。来年も今年以上の開花を期待している私の小さな庭への想いです。

5月12日は母の日です。テレビ、新聞ではカーネーションが1本3~4百円の高値をつけ平日の約25%の値上りになると伝えています。

この4月から消費生活グループの一員となりました。今までの経験を生かし仕事をしていきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

什事と新聞記事

消費生活担当主事 高 橋 健 一

辺り一帯“ピンク”で彩られた景色も、惜しむ間もなく色鮮やかな“グリーン”へと装いを新たにしました。不思議なもので、この移り変わりに「よし、やってやるぞ！」と言わんばかりに心も変化していくのを覚えます。

私は、この度の異動で総務庁から統計課に参りました。故郷である茨城で仕事ができることを嬉しく思っております。どうぞよろしくお願ひします

さて、先月ゴルバチョフ大統領が来日しました。新聞・テレビ等で「北方領土問題」について集中的に報道しておりましたが、「四島一括返還」への期待とは裏腹な結果だったようです。しかし、報道は我々国民に様々な情報を与えてくれます。今回の集中的な報道も結果はともかく国民の意識の向上という点では、大きな役割りを果たしたので

はないでしょうか。私は、前の職場で「報道・広報」のセクションで勤務しておりました。そのせいか、新聞を見ると、領土問題のような総務省関連記事に目がいきます。やはり自分の担当(関係)している記事は気になるものです。今後は「バナナが値上がりした」とか「今年ははくさいが高い」とかいった記事に目がいくことと思います。

一日も早く一人前の仕事ができますように、明るく、元気に、そして一所懸命頑張りますのでどうぞよろしくお願ひします。



今一番興味のあるもの

茨城県統計協会臨時職員
海老沢 久子

4月から統計協会で、お世話になることになりました。よろしくお願ひ致します。

今一番興味のあるものは、車です。これは周りの友達の影響もあるのですが、展示場を見に行ったり、カタログをもらって来ては話しをしたりしています。男の人みたいにくわしいことはわかりませんが、外見や内装を見ているだけでも、とてもおもしろいです。町を歩いていても、ウインドウに飾ってあるはやりの服よりも、町を走っている車に目がいくくらいです。これは重症でしょうか……と言っても今はこのくらいでとても自分の乗りたい車を買う……というとこまではいきません。今の夢はレガシーに自転車をつんで、ちょっと遠出をしてみたいな…なんて思っています。これは本当に夢で終わりそうです。せいぜい今は、自分の乗っている車をきれいにそうじしたり、友達がいいコンポを安く見つけて来てくれる付けかえてみたりという感じです。また近々付けかえる予定です。

車だけではなく、スポーツやファッションといろんなものに興味がありますので、テニスやスキーヘ行く計画のある方は、よろしかったら声をかけて下さい。

落ち付きのない、おっちょこちょいな私ですが一生懸命仕事をして少しでもみなさんのお役に立

てたらと思いますので、よろしく御指導お願ひ致します。

編集後記

A black and white portrait photograph of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a suit and tie.

普及指導担当主任
池田淳

今度、統計いばらきの編集を担当することになりました。よろしくお願ひ致します。

正直なところ、統計いばらきという名前は聞いたことがありました、実際に見たのは、統計課に来てからでした。中身は、数表と統計に関する記事ですが、月刊誌の上、ページ数も多く、私は統計についての知識もないため、果して締め切りに遅れずに発行できるのだろうかと、不安を感じざるを得ませんでした。今、この原稿を書いている時点では、初めて編集した4月号の出稿が済んだところで、やっと一安心といったところです。

前の職場は、教育庁の保健体育課で、学校給食の施設設備の補助金を主に担当していました。私が給食を食べたのは、もう20年も前のことですがその頃から比べると現在の給食は、随分と変化しています。まず、食器についても、以前はアルマイト製の冷たいものでしたが、現在は陶磁器を使用したり、家庭にある食器に近いものになっています。食事環境についても、昔は教室で食べていただけですが、今は食堂やランチルームが作られ、そこで給食が食べられるようになっている学校も多くなっています。メニューも豊富で、バイキング方式といって、子供たちが自由に料理を選べることもできます。今の子供たちは本当に恵まれていると思います。

最後になりましたが、統計いばらきの編集では、皆様にいろいろと御迷惑をかけることがあるかと思いますが、御協力の程よろしくお願ひ致します。

統計調査の「合理化」

—事業所統計調査と商業統計調査の同時実施をめぐって—

統計審議会会長 中村 隆英

どんな産業でも、長い間には、生産や流通、経営などの過程において、様々な改良が進められて、能率を高め、人手やコストを切り下げる努力が積み重ねられてきている。10年前に見学に行った工場をまた訪れると、文字どおり面目が一新されてしまっていて、これがあの工場なのかと驚かされることも珍しくない。また、ときとしては、飛躍的な変化がおこって、生産工程や流通のしくみが短期間に一変してしまうことがある。生産のオートメーション化が行われて、清酒工場が化学工場かと見まがうばかりになったり、工作機械が自動化されて無人の精密機械工場が出現したりしたのはその例である。このような急激な変容は、「革新」—イノベーションと呼ばれ、シェンペーターによって、経済発展の原動力と考えられた。地道な部分的改良にせよ、一挙に行われる革新にせよ、こうした「合理化」の努力なしには戦後日本の復興も成長も有り得なかつたことは確かである。

統計についても、また同じような努力が日常的に積み重ねられてきている。まず戦後の統計復興の時代を経て、世界的にみても第一級の現在の統計体系が作りあげられたのは、昭和30年代のことであった。その後も、光学読取装置や、大型コンピュータの導入などによって、集計が著しく速くなり、詳細な製表も可能になり、さらには磁気テープによる公表も実現するなど、統計の分野での「革新」はとどまるところを知らない。しかしながら、ハードな機械的な集計・公表の分野に比べて、調査実務の面では進歩が比較的緩やかであって、現場における調査が次第に困難になってきていることも否定できない。特に、実査の手順は、調査員による調査票の配布と回収、さらに審査が

すべて多数の人手を必要とすることは昔どおりだし、調査対象が調査に協力してくれる程度は昔より消極的になっているのも事実であって、調査は一層困難になってきつつある。

その一方で、これまで手薄であったストック統計、サービス業統計、環境統計などが、社会的、経済的にみてますます必要の度を高めてきていることは「統計行政の中・長期構想」(昭和60年10月統計審議会答申)にも示されているとおりである。このうち「サービス業基本調査」は平成元年に実施されたものの、なお整備されるべき分野は残されている。しかも国と地方公共団体の統計職員数は次第に削減され、統計予算の査定も厳しくなった。このような状況のもとで、統計体系を維持するだけでなく、更に整備充実を図っていくためには、統計調査についても、より一層の「合理化」を図っていくほかはないであろう。調査の実施や審査の面で新しい工夫が是非必要だ。特に機械化などのハード面での「合理化」だけでなく、調査のやり方や内容にふれる、言わばソフト面での「合理化」が正に待望されているのである。

本年7月1日を期して行われることになった「事業所統計調査」(総務庁統計局)と「商業統計調査」(通商産業省調査統計部)との同時実施は、正に画期的な合理化がソフト面で実現したという重要な意義をもっている、と私は考えている。なぜ、画期的な合理化なのか。その理由は次の3つの事柄にある。

まず第1に、「事業所統計調査」と「商業統計調査」とは、「工業統計調査」とともに、事業所を対象とする三大センサスといわれる大調査であって、それぞれの実施に当たっては、実査に当たる地方公共団体は、これまで多大の努力を傾注してきた。

そこで、両調査が同じ年に実施されることがないように、「中・長期構想」においても、10年以上先までの実施年度が予定されていたのである。ところが、平成元年に「サービス業基本調査」が実現したために、同年に予定された「事業所統計調査」が名簿の整備だけにとどめられた。そこで平成4年に予定されていた「事業所統計調査」を1年繰り上げる必要が生じ、「商業統計調査」と同じ年に行われることになったのである。

それならば、2度も大調査を行うよりも、両者を同時に実施するほうが、地方の事務量や記入者の負担を軽減するためにも便宜であるという考えが生まれ、総務庁と通商産業省との協議の末、その方法が決められた。簡単に言えば、準備調査によって事業所のうち商業統計調査の対象を明らかにしておき、そこには商業統計調査の調査票を、他には事業所統計調査の調査票を配布する。商業統計調査の調査票には、事業所統計調査の調査事項がすべて含まれているので、商店等については、1枚の調査票によって両調査が行われるというしくみである。このためには、調査実務がかなり煩雑になり、困難も予想されるけれども、2つの調査を別々に行うよりは事務量も記入者の負担も軽減されることは間違いない。この意味で、私のいうソフト面の「合理化」の一つが、正に実現されようとしているのである。

第2は、両調査を同時に実施することによって、最新の事業所名簿による商業統計調査が実施できるという点である。商業統計調査を単独に行うと、ともすれば、調査を回避するために、商業事業所なのに商業以外の事業所であると称するものがみられたが、今回は事前の準備調査によって、このような問題の発生を防止することができる。同時実施によって、

調査の精度を高めることが期待されるのである。

第3に、今回の両調査の同時実施は、今後のための重要な実験としての意味をもっているということを指摘しておきたい。両調査がたまたま平成3年に行われることになったのは、上記の理由があったからで、もちろん臨時の措置である。今後とも両調査を同時に行うというわけではない。しかし今回の同時実施が成功して、事務量も記入者の負担も軽減されることが確認されれば、将来において、この両調査に限らず、大規模センサスの同時実施を考慮する可能性が高まってくる。将来的の課題とされているストック調査などが無理なく行われうるようになるためには、こうした工夫が役立つだろうと思われるからである。

しかし、良いことばかりではない。同時実施に伴う負担を減らすために、事業所の本所の名称や所在地の調査事項を削除したために事業所統計調査における企業別の集計や、商業統計調査の事業所の異動状況などの集計ができないことになった。これは将来復活することもできようし、統計調査の「合理化」のためのやむを得ない犠牲とみるべきであろう。

以上をまとめて、私は今回の同時実施を、統計調査におけるソフト面での「合理化」の第一歩として、高く評価したい。人員、予算、統計調査の環境など、様々な制約のなかで、社会の需要に応えうるような統計を作っていくためには、知恵を絞って、新しいやり方を考えだし、実行に移していくほかはないからである。このようなわけで、私は今回の試みが成功し、これから統計調査の「合理化」の指針となってくれることを願っている。

統計実務の第一線の皆さん、どうかがんばって、有意義なこの実験を成功させてください。

事業所統計調査の概要

統計調査ニュースから

1. 調査の目的

事業所統計調査は、産業活動の母体となる事業所を網羅的に調査することにより、その産業構造及び事業活動の実態を明らかにすることを第1のねらいとして実施されるもので、我が国の経済・社会政策の立案、推進に資することを目的とするものです。

我が国の経済は、戦後の混乱期から復興期、その後の昭和30年代、40年代の高度成長期を経た後、第1次、第2次の石油危機等に伴う国際的な構造変化を克服して今日に至っています。この間、事業所統計調査は、その時々の産業政策、経済政策の遂行上欠かせない基礎資料を提供してきています。

特に、近年、我が国の経済力の著しい高まりと国際的な地位の向上を背景に、国内的には眞の豊かな国民生活の達成が求められ、国際的には世界経済の発展への一層の貢献が求められるようになってきています。また、科学技術の著しい進歩は、このような国民の眞の豊かさへの志向の高まりや経済の国際化の進展とあいまって、我が国の産業構造を新たな変貌へと導きつつあります。今回の事業所統計調査は、このように事業所をめぐる環境が大きく変化する中で実施されるものであり、新しい時代に即した政策推進のための基礎資料を提供するものとして、極めて重要な役割を果たすものと期待されています。

また、事業所統計調査は、事業所や企業を対象とする各種統計調査の実施のための基礎資料を提

供する役割を持っています。このため、事業所及び企業に関するリストを地域別、産業別に作成・整備し、各種統計調査の調査対象の選定等に必要な資料を提供しています。

国や地方公共団体等が行う事業所や企業を対象とする調査は多数にのぼりますが、これらのほとんどは、事業所統計調査の結果を基礎としており、事業所統計調査の結果は、他の統計調査の結果精度に大きな影響を与えるものであります。

2. 調査の沿革

事業所統計調査は、昭和22年に第1回の調査が開始されましたが、その系譜をたどってみると、統計局が長年にわたって実施してきた労働に関する調査にその源泉をみることができます。すなわち、統計局では、大正13年に「労働統計実地調査」を開始し、昭和14年まで7回の調査を行うとともに、昭和15年から17年には「労働技術調査」を、昭和19年から戦後の昭和21年には「年次勤労統計調査」を実施してきましたが、昭和22年4月、時の連合国軍総指令部(G.H.Q.)は、それまでの年次勤労統計調査に代えて、事業所統計調査を実施するよう指令を出したいきさつがあります。この指令に盛られた内容は、従来実施してきました一連の労働に関する調査とは著しく異なるものであったため、統計法による指定統計第2号の指定を受け、賃金、雇用といった観点の調査から、産業構造の実態、事業活動の状態等を明らかにする調査として衣替えすることとなりました。

昭和22年の第1回調査は、その年の10月に行わ

■調査から

れた「昭和22年臨時国勢調査」と同時に行われ、調査員も国勢調査と事業所統計調査の両方を担当する形で実施されました。昭和23年に2回目の調査が行われましたが、これは事業所統計調査というよりは賃金に関する調査を目的としたものであり、名称も「事業所賃金調査」とし、現金給与額のほか、労働日数、労働時間等が主要な調査内容となっています。この「事業所賃金調査」は、その後、労働省の「賃金構造基本統計調査」に引き継がれて行われています。第3回調査は、昭和26年7月に実施されましたが、この調査は第1回調査とほぼ同様に事業所に関する基本的な事項がその主な内容となっています。

以後、事業所統計調査は、昭和56年まで3年ごとに実施され、前回（昭和61年）の調査から5年ごとの調査となっています。この間、調査事項、調査対象の範囲などに若干の変更点があるものの、事業所に関するセンサスとしてその役割を果たしてきています。

なお、事業所統計調査は、民営事業所を対象とする「甲調査」、民営のサービス業事業所を対象とする「乙調査」及び国・地方公共団体の事業所を対象とする「丙調査」に分かれるが、平成元年にサービス業基本調査が実施されたことから、平成3年調査では甲調査及び丙調査を行い、乙調査を行わないこととしています。

3. 調査結果の公表

事業所統計調査結果として、次の結果を公表しています。

(1) 要計表等による集計

事業所数（公営・民営の別を含む。）を全国・都道府県・市区町村別に、早期に提供するための集計

(2) 速報集計

確報前の結果として、産業別、従業者規模別、経営組織別の事業所数とその男女別従業者数の主要結果についての集計

(3) 確報集計

○事業所に関する集計として、産業別、従業者・常雇規模別、本所・支所別、事業所の形態別、開設時期別等の事業所数とその男女・従業上の地位別従業者数を集計

○会社に関する集計として会社組織の事業所について、企業産業、企業類型別、経営組織別、資本金階級別、支所数規模別、企業常雇規模別等の企業数を集計

これらの結果については、「全国編」、「都道府県編」、「会社企業編」に分けて報告書を刊行しているほか、調査結果を時系列で編集した「解説編」を刊行しています。

なお、確報集計では、町丁・大字別集計などの小地域による集計を行っています。

4. 調査結果の利用

事業所統計調査は、事業所の基本構造を把握する基礎資料として、産業政策、経済政策を遂行する上で欠かせない役割を果たしており、以下のように幅広く利用されています。

(1) 国土総合利用計画の立案

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| (2) 産業の適正配置計画の立案 | (8) 産業連関表・G N Pなどの所得推計 |
| (3) 事業所の集積とその対応策 | (9) 小地域統計への利用 |
| (4) 地方都市開発整備計画の立案 | (10) 地方交付税交付金算定のための資料 |
| (5) 産業の育成と雇用問題 | (11) 消費譲与税算定のための資料 |
| (6) 社会福祉施設などの整備計画 | (12) 事業所を対象とする各種統計調査の標本設計 |
| (7) 公共文化施設の整備計画 | への母集団資料 |

商業統計調査の概要

通商産業大臣官房調査統計部商業統計課

1. 調査の趣旨

商業統計調査は、全国の卸売・小売業、飲食店を営む事業所(以下「商店」という。)を業種別、規模別、地域別、業態別等に把握し、商店の分布状況及び販売活動等の我が国商業の実態を明らかにすることを目的としており、いわば「商業の国勢調査」といわれるものである。

本調査は、「統計法」(昭和22年法律第18号)に基づく指定統計調査(指定統計第23号)であり、昭和27年の第1回調査以降、昭和51年の第13回調査までは2年ごと、その後は3年ごとに実施している。

今回、平成3年7月1日に実施する調査は、卸売・小売業を営む商店を対象とした第18回調査に当たる。

調査を実施するための具体的な調査項目、調査実施方法等については、「商業統計調査規則」(通商産業省令)により詳細に定められている。

2. 調査の経緯

(I) 調査の沿革

商業統計調査は、昭和27年に第1回調査を実施したが、その系譜をたどると、昭和6年の東京市商業調査が始まりとされている。当時、我が国における商業は、中小規模商店の著しい増加に伴う業者間の競争の激化がみられる一方、百貨店等の大規模商店の進出により、中小商業問題が台頭してきた時期である。このような情勢の中で、商業活動の実態を的確に把握し、適切な商業施策への基礎資料の充実を図る必要から、調査対象地域を指定し、それぞれの地域に所在する商業者を対象に商業調査を実施することとした。

昭和11年まで調査対象地域を順次拡大しつつ実施したこれらの調査が、組織的、体系的な商業調査の始まりであったとされている。

■調査から

昭和12年以降、我が国経済は戦時体制に移行し、物資の配給に関する実情を把握する必要から、昭和14年に「資源調査法」(昭和4年法律第53号)に基づき、物資供給機能組織として重要な地位を占める卸売業についてのみ商業調査を実施することとした。この調査は昭和17年まで実施されたが、昭和18年以降は「戦時特例に関する法律」により停止されることとなった。

終戦後、日本経済の変動期において、商業機構もまた、商業活動の規制緩和とともに著しい変化を遂げていた。このような変動の時代を背景に、我が国商業の実態を構造的に把握する必要性が高まりつつある中、昭和23年から昭和26年にかけて、特定地域を対象に試験調査を実施し、全国的商業調査の基盤を整備するとともに、昭和24年には商業調査の重要性に鑑み、統計調査の真実性を確保する観点から、「統計法」に基づく指定統計として調査を実施することとした。

昭和27年に、指定統計として実施した全国規模の第1回調査は、昭和23年から行われたこれら試験調査の結果を踏まえ、戦後初めて実施した全国的商業調査であり、この調査結果は、我が国商業者の分布と、その活動状況の実態を明らかにした貴重な資料とされている。

昭和27年以降現在に至るまで、時代の移り代わりに対応した調査対象範囲、調査周期等の改訂はあるものの、我が国商業の実態を明らかにする統計として、その重要な役割を果たしている。

(2) 調査期日の変遷

商業統計調査の調査期日は、調査時における

大規模調査との重複、これによる地方公共団体等の事務の混乱の回避及び商店の決算期日等の関係により、必ずしも一定期日ではないが、現在は調査実施年の6月1日を原則としている。

調査期日の変遷

回数	年 次	調査期日	備 考
1	昭和27年	9月1日	①
2	29	9月1日	①
3	31	7月1日	①
4	33	7月1日	①
5	35	6月1日	①
6	37	7月1日	①
7	39	7月1日	①
8	41	7月1日	①
9	43	7月1日	①
10	45	6月1日	①
11	47	5月1日	①
12	49	5月1日	①
13	51	5月1日	①
14	54	6月1日	①
15	57	6月1日	①
16	60	5月1日	②
	61	10月1日	③
17	63	6月1日	②
	平成元年	10月1日	③
18	3	7月1日	②
	4	10月1日	③(予定)

注: 備考の①②③は、調査種別を表す。

①卸売・小売業、飲食店 ②卸売・小売業 ③一般飲食店

3. 調査結果の公表

商業統計調査結果として、以下の集計表を公表している。

(1) 速 報

主要項目（商店数、従業者数、年間販売額、商品手持額、売場面積）の確報前の集計

(2) 確 報

全国の商店について、調査結果数値として調査項目ごとに集計

- ①商業統計表 第1巻 産業編（総括表）
- ②商業統計表 第2巻 産業編（都道府県表）
- ③商業統計表 第3巻 産業編（市区町村表）
- ④商業統計表 第4巻 品目編
- ⑤商業統計表（一般飲食店）

(3) 二次加工統計

調査内容を相互に組み合わせることによる別集計

- ①流通経路別統計編（卸売部門）
- ②立地環境特性別統計編（小売部門）
- ③業態別統計編（小売部門）
- ④大規模小売店舗統計編（小売部門）
- ⑤業態別統計編（一般飲食店）

4. 調査結果の利用

商業統計調査は、我が国商業活動の実態を把握し、その構造を分析するための唯一、かつ、根幹的な統計であり、以下のような幅広い分野で利用されている。

(1) 中小商業施策を中心とする流通関連施策の立案、実施の基礎資料

- ①大規模小売店舗法及び小売商業調整特別措置法の運用
- ②中小小売商業振興法の運用

③中小企業近代化促進法に基づく業種別近代化計画の策定

④商業近代化地域計画の策定

⑤商店街診断、広域商業診断の実施

⑥卸商業団地等の計画策定（中小企業事業団による店舗等集団化事業等）

⑦商店街近代化計画の作成（中小企業事業団による商店街近代化事業等）

⑧中小企業の事業転換の推進

⑨都市計画、市街地再開発計画、都市の特性分析への利用

(2) 所得推計、構造分析等の基礎資料

- ①産業連関表及び地域間産業連関表の作成
- ②国民経済計算（新SNA）の推計
- ③県民所得、市区町村民所得の推計
- ④地域産業構造分析及び地域産業ビジョン等の策定
- ⑤各種白書（経済白書、中小企業白書、労働白書、県要覧、その他の白書）の作成
- ⑥流通産業ビジョンの策定

(3) 各種調査の標本設計への母集団の提供

(4) 民間、学術研究団体における研究、市場予測、需要予測等への利用

主 要 経

茨 城 県

年 月	世 帯 と 人 口			金融機関預貸金		手 形 交 換 高 (8手形交換所分)		百 貨 店 売 上 高 (主要4店)	鉱 工 業 生 産 指 数 (鉱工業総合 (季調済指數))
	世 帯	人 口	人 口 増 加 率	実質預金	貸 出 金	枚 数	金 額		
	世 帯	人	%	億 円 (年月末)		千 枚	百万円		
昭和62年	782 609	2 769 973	8.62	71 396	35 933	2 205	2 452 846	66 120	106.2
63	797 611	2 797 696	6.61	72 973	37 451	2 157	2 505 193	68 363	113.9
平成元年	814 526	2 826 024	10.13	82 288	43 604	2 037	2 585 216	71 163	120.4
2 . 2	818 626	2 834 093	0.42	87 798	48 144	160	194 714	5 606	122.9
3	819 212	2 835 286	△0.16	93 429	50 197	155	203 154	5 487	126.9
4	817 463	2 830 630	2.84	91 259	49 478	161	263 259	6 211	122.6
5	825 289	2 838 663	0.97	90 264	48 986	193	260 968	5 735	126.4
6	827 612	2 841 407	0.91	94 088	50 802	146	211 122	5 613	128.9
7	829 209	2 843 988	0.69	94 784	51 121	199	245 773	7 211	128.1
8	830 116	2 845 950	1.35	95 018	51 639	168	214 685	5 109	126.0
9	831 517	2 849 806	△1.54	98 034	52 948	139	177 505	4 852	124.9
10	833 284	2 845 411	1.01	95 554	52 700	187	256 966	5 815	127.7
11	834 941	2 848 279	0.80	96 770	53 347	160	197 011	5 901	128.7
12	836 294	2 850 549	r 0.59	100 036	54 833	181	247 821	8 451	128.5
3 . 1	836 835	2 852 225	r 0.83	97 183	54 317	158	214 708	7 058	r 128.5
2	838 151	2 854 589	...	97 112	54 897	155	193 709	5 418	P 131.4
資 料	県 統 計 課			日 本 銀 行 水 戸 事 務 所				水 戸 財 務 事 務 所	

(注) 百貨店売上高は、1店の閉店により平成元年6月から主要4店の合計となった。

全 国

年 月	人 口		銀 行 券 発 行 高	全 国 銀 行 勘 定		手 形 交 換 高		百 貨 店 売 上 高	鉱 工 業 生 産 指 数 (鉱工業総合 (季調済指數))
	人 口	人 口 増 加 率		実質預金	貸 出 金	枚 数	金 額		
	千 人	%		億 円 (年月末)		千 枚	億 円		
昭和62年	122 264	4.86	291 868	2 690 622	3 015 938	396 263	41 725 947	74 910	102.8
63	122 583	4.25	297 299	2 779 489	3 144 199	393 743	39 917 157	79 967	112.9
平成元年	123 255	3.84	303 852	3 511 315	3 869 916	381 264	44 689 705	66 054	119.9
2 . 1	123 264	0.93	313 168	3 715 317	4 113 947	32 972	3 703 427	6 526	120.7
2	123 379	△0.49	317 600	3 774 410	4 146 793	29 348	3 622 769	5 856	121.1
3	123 318	0.62	335 296	3 903 596	4 243 430	29 343	4 457 433	8 211	123.1
4	123 394	△0.17	346 408	3 929 775	4 207 818	30 101	4 243 121	7 171	121.9
5	123 373	1.07	311 727	3 922 795	4 188 058	35 499	4 064 216	7 076	125.0
6	123 505	0.26	336 756	3 977 546	4 258 235	27 501	3 847 257	7 173	124.8
7	123 537	△0.60	327 314	3 970 928	4 277 285	39 178	4 264 077	9 856	127.0
8	123 463	0.84	319 854	3 972 347	4 297 706	31 137	4 107 945	6 011	127.4
9	123 566	0.87	322 464	4 092 396	4 341 726	26 262	3 762 437	6 690	126.1
10	123 612	r 0.40	316 373	3 985 999	4 339 514	34 770	4 497 285	7 827	130.0
11	r 123 661	P 0.26	319 867	4 043 181	4 381 429	30 234	3 569 028	7 710	129.0
12	P 123 690	P 0.81	397 978	4 090 101	4 411 685	35 622	3 833 904	13 192	128.1
3 . 1	P 123 590	...	325 771	3 963 681	4 401 901	29 081	3 385 794	7 040	129.8
資 料	総務庁統計局		日 本 銀 行 調 査 統 計 局				日本百貨店協会	通 产 省	

(注) ※は年度数値。世帯と人口の各年の数値は10月1日現在、人口増加率は10月1日～翌年9月30日。

全国の産業用大口電力消費量は9電力会社の計。

県及び全国の鉱工業生産指数は、年間補正後の指標である。

全国銀行勘定は、第2地方銀行協会加盟行(相互銀行を含む)を含むベースで遡及調整。

済 指 標

茨 城 県

調査産業 平均賃金	賃金指數	雇用指數	有 効 求人倍率	消 費 者 物価指數 (水戸市)	家計消費支出 (水戸市勤 労者)	産 業 用 電力消費量 (50kW以上)	建 築 着 工		年 月		
							工 事 費 額	床 面 積			
サ ー ビ ス 業 を 含 む											
円	昭60年=100		倍	昭60年=100		円	千kWh	百万円	千m ²		
313 471	103.9	105.5	0.92	100.3	323 456	※8 377 213	668 220	5 845	昭和62年		
325 247	109.1	106.9	1.35	100.9	312 476	※8 782 872	817 323	6 705	63		
338 115	113.4	109.4	1.60	102.8	332 924	※9 479 781	1 045 697	7 531	平成元年		
257 199	86.2	109.4	1.93	103.9	278 347	791 104	88 922	597	2. 2		
281 044	94.2	109.3	1.91	104.2	345 934	827 430	103 892	644	3		
267 694	89.8	112.3	1.75	105.1	318 975	837 853	75 771	570	4		
272 743	91.4	112.0	1.69	106.4	347 115	863 722	129 835	821	5		
572 129	191.8	112.1	1.77	105.6	387 400	865 879	122 497	834	6		
403 268	135.2	111.8	1.90	105.7	323 964	909 158	125 814	863	7		
301 715	101.2	111.4	1.92	105.8	318 856	847 338	102 637	690	8		
270 861	90.8	111.3	2.01	107.0	354 085	879 356	102 398	688	9		
272 215	91.3	111.3	2.02	108.3	336 303	884 696	112 234	735	10		
285 176	95.6	111.6	2.08	108.3	337 373	874 354	110 095	650	11		
788 066	264.2	111.5	2.08	108.1	493 545	858 370	113 839	712	12		
...	2.00	108.5	374 113	810 603	75 717	529	3. 1		
...	2.04	108.0	...	861 964	110 715	673	2		
県 統 計 課	県職業 安定課	総務 庁 統計局	東京電力 支店	建設省建設経済局					資 料		

全 国

調査産業 平均賃金	賃金指數	雇用指數	有 効 求人倍率	消 費 者 物価指數 (勤労者)	家計消費支 出(勤労者)	産業用大口 電力消費量	建 築 着 工		年 月		
							工 事 費 額	床 面 積			
サ ー ビ ス 業 を 含 む											
円	平2年=100		季調済	昭60年=100		円	百万kWh	億円	千m ²		
335 944	r 88.6	r 93.3	0.76	100.2	295 915	※218 337	302 873	237 226	昭和62年		
341 160	r 91.7	r 94.7	1.08	100.7	307 204	※217 371	354 054	255 783	63		
357 079	r 95.5	r 97.1	1.30	103.0	316 489	※232 653	405 740	269 210	平成元年		
293 256	r 79.6	r 97.7	1.33	104.1	311 562	18 756	29 162	17 757	2. 1		
267 391	r 72.6	r 97.7	1.36	104.4	285 714	18 493	34 337	20 107	2		
296 314	r 80.4	r 97.6	1.37	104.8	357 003	19 934	39 530	23 189	3		
277 848	r 75.4	r 100.8	1.38	105.7	335 490	19 330	39 410	24 333	4		
277 157	r 75.0	r 100.8	1.39	106.4	310 980	19 582	42 552	24 998	5		
532 131	r 144.1	r 100.9	1.42	105.7	310 861	21 027	47 572	27 431	6		
485 532	r 131.4	r 100.9	1.45	105.6	353 414	21 688	46 512	26 765	7		
309 681	r 83.8	r 100.8	1.43	106.1	322 946	20 772	44 974	25 034	8		
278 133	r 75.3	r 100.6	1.43	107.2	307 974	21 250	42 747	24 271	9		
279 976	r 75.7	r 100.7	1.42	108.7	314 770	21 520	44 013	24 974	10		
293 469	r 79.3	r 100.8	1.43	108.2	303 178	20 606	40 877	22 313	11		
r 842 204	r 227.4	r 100.9	1.44	107.9	465 243	20 585	41 228	22 247	12		
P 300 023	80.0	100.4	1.44	108.9	325 913	19 901	34 000	17 701	3. 1		
労 働 省	総務 庁 統計局	通 产 省	建 設 省						資 料		

(注) 消費者物価指数は持家の帰属家賃を除く総合指数である。

1. 世帯、人口および人口移動

(単位：世帯、人)

年月日	世帯数	人口			対前年(月) 増減数	人口移動				
		総数	男	女		自然動態		社会動態		
						出生	死亡	転入	転出	
63.10.1	797 611	2 797 696	1 394 133	1 403 563	27 723	30 675	18 481	130 174	114 485	
元.10.1	814 526	2 826 024	1 408 914	1 417 110	28 328	29 375	17 867	133 160	116 667	
2.10.1	833 284	2 845 411	1 420 586	1 427 693	
2.3.1	819 212	2 835 286	1 413 393	1 421 893	1 193	2 229	1 723	7 794	7 107	
4.1	817 463	2 830 630	1 410 460	1 420 170	△4 656	2 460	1 694	21 795	27 217	
5.1	825 289	2 838 663	1 415 222	1 423 441	8 033	2 187	1 491	23 239	15 902	
6.1	827 612	2 841 407	1 416 777	1 424 630	2 744	2 649	1 652	10 419	8 672	
7.1	829 209	2 843 988	1 917 991	1 425 997	2 581	2 334	1 357	9 141	7 537	
8.1	830 116	2 845 950	1 419 012	1 426 938	1 962	2 506	1 497	9 592	8 639	
9.1	831 517	2 849 806	1 421 096	1 428 710	3 856	2 562	1 419	10 707	7 994	
10.1	833 284	2 845 411	1 418 998	1 426 413	
11.1	834 941	2 848 279	1 420 586	1 427 693	2 868	2 546	1 587	10 476	8 567	
12.1	836 294	2 850 549	1 421 746	1 428 803	2 270	2 368	1 496	8 394	6 996	
3.1.1	836 835	2 852 225	1 422 398	1 429 827	1 676	2 199	1 619	8 978	7 882	
2.1	838 151	2 854 589	1 423 692	1 430 897	2 364	2 481	1 939	8 372	6 550	
3.1	839 288	2 856 840	1 424 985	1 431 855	2 251	2 241	1 689	8 813	7 114	

(注) 人口移動のうち、年別人口移動については各年の年間数値を、月別人口移動については前月の月間数値を示す。

資料：県統計課

人口移動については各市町村から住民基本台帳などに基づき報告されたものである。

2. 市町村別人口と世帯

(単位：人、世帯)

市町村	平成2年 10月1日 人口総数	平成3年3月1日			市町村	平成2年 10月1日 人口総数	平成3年3月1日		
		人口総数	対前月 増減数	世帯数			人口総数	対前月 増減数	世帯数
総 数	2 845 411	2 856 840	2 251	839 288	下妻市	33 731	33 937	2	9 225
市 部	1 552 184	1 558 081	1 028	491 024	水海道市	42 340	42 446	27	11 048
郡 部	1 293 227	1 298 759	1 223	348 264	常陸太田市	37 623	37 745	14	10 772
水 戸 市	234 970	235 645	211	83 790	勝田市	109 826	110 322	108	35 515
日 立 市	202 145	202 168	△ 35	67 993	高萩市	35 320	35 320	9	10 867
土 浦 市	127 470	128 236	123	41 869	北茨城市	51 092	51 127	24	14 965
古 河 市	58 227	58 305	△ 15	18 036	笠間市	30 813	30 720	△ 7	8 468
石 岡 市	50 617	50 812	43	15 185	取手市	81 667	82 164	121	25 832
下 館 市	66 030	66 267	39	19 275	岩井市	43 103	43 260	77	11 017
結 城 市	53 290	53 581	60	14 347	牛久市	60 698	61 139	81	18 059
竜ヶ崎市	57 237	58 118	140	17 451	つくば市	143 408	144 218	40	47 949
那珂湊市	32 577	32 551	△ 34	9 361					

(注) 平成2年10月1日人口総数は、平成2年国勢調査結果速報値による。

市町村	平成2年 10月1日 人口総数	平成3年3月1日			市町村	平成2年 10月1日 人口総数	平成3年3月1日		
		人口総数	対前月 増減数	世帯数			人口総数	対前月 増減数	世帯数
東茨城郡	145 090	145 484	70	38 534	稻敷郡	138 132	138 954	236	37 359
常澄村	10 557	10 579	6	2 506	江戸崎町	14 637	14 883	53	4 068
茨城町	35 648	35 722	19	9 100	美浦村	14 346	14 521	43	4 179
小川町	18 483	18 772	36	4 665	阿見町	42 189	42 313	42	12 707
美野里町	21 751	21 857	16	5 947	茎崎町	25 070	25 245	33	6 832
内原町	14 931	14 921	—	3 716	新利根村	9 177	9 333	61	2 244
常北町	11 321	11 336	4	3 148	河内村	11 201	11 176	△ 3	2 671
桂村	6 688	6 677	—	1 836	桜川村	8 060	8 025	9	1 787
御前山村	4 966	4 931	△ 7	1 363	東村	13 452	13 458	△ 2	2 871
大洗町	20 745	20 689	△ 4	6 253	新治郡	89 984	90 470	89	23 162
西茨城郡	72 890	73 270	63	19 515	出島村	18 674	18 698	10	4 540
友部町	30 964	31 267	49	8 778	玉里村	7 967	8 042	22	2 122
岩間町	16 006	16 074	20	4 298	八郷町	29 421	29 590	45	6 726
七会村	2 711	2 708	3	654	千代田村	24 340	24 546	16	7 384
岩瀬町	23 209	23 221	△ 9	5 785	新治村	9 582	9 594	△ 4	2 390
那珂郡	127 348	127 649	19	36 997	筑波郡	38 538	38 742	33	9 897
東海村	31 560	31 635	△ 12	9 804	伊奈町	26 603	26 658	4	7 036
那珂町	42 563	42 716	23	12 071	谷和原村	11 935	12 084	29	2 861
瓜連町	8 517	8 588	1	2 307	真壁郡	80 447	80 543	32	19 701
大宮町	25 540	25 560	22	7 453	閑城町	16 376	16 387	8	3 941
山方町	8 780	8 770	△ 12	2 546	明野町	18 183	18 190	28	4 573
美和村	5 283	5 262	7	1 391	真壁町	20 832	20 850	8	5 152
緒川村	5 105	5 118	△ 10	1 425	大和村	7 838	7 844	△ 11	1 842
久慈郡	49 202	49 057	△ 10	13 695	協和町	17 218	17 272	△ 1	4 193
金砂郷村	10 424	10 398	12	2 857	結城郡	55 327	55 541	25	13 204
水府村	7 031	6 996	△ 7	1 957	八千代町	24 350	24 425	5	5 447
里美村	4 680	4 667	△ 6	1 284	千代川村	8 973	8 989	△ 5	2 130
大子町	27 067	26 996	△ 9	7 597	石下町	22 004	22 127	25	5 627
多賀郡	12 928	12 922	19	3 663	猿島郡	132 988	133 804	156	35 000
十王町	12 928	12 922	19	3 663	総和町	44 842	45 135	50	12 999
鹿島郡	186 825	187 755	220	53 729	五霞村	9 468	9 583	—	2 421
旭村	11 269	11 345	△ 9	2 510	三和町	36 163	36 532	54	9 422
鉢田町	28 371	28 396	13	7 123	猿島町	15 596	15 529	△ 1	3 298
大洋村	10 483	10 522	24	2 636	境町	26 919	27 025	53	6 860
大野村	13 865	13 931	15	3 593	北相馬郡	89 679	90 605	272	24 990
鹿島町	45 232	45 386	58	14 315	守谷町	36 427	37 162	231	10 548
神栖町	40 354	40 626	66	12 756	藤代町	32 744	32 915	53	9 130
波崎町	37 251	37 549	53	10 796	利根町	20 508	20 528	△ 12	5 312

(注) 世帯数、人口、人口移動とも外国人を含む。

資料：県統計課

3. 産業別賃金指数（現金給与総額）

(昭和60年=100)

年 月	調査産業計		建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業・飲食店	金融・保険業	サービス業
	サービス業を含む	サービス業を除く							
昭和62年	103.9	104.2	107.0	103.9	106.1	109.5	93.7	110.5	102.0
63	109.1	109.5	110.9	110.7	112.8	116.5	93.8	106.0	106.5
平成元年	113.4	113.8	114.9	115.3	118.8	123.4	99.3	99.5	110.7
元.12	253.1	247.0	250.7	254.3	259.4	273.3	190.4	190.3	266.9
2. 1	97.7	99.2	98.8	95.9	132.3	105.3	95.5	124.5	92.4
2	86.2	87.1	97.4	88.6	92.1	92.8	76.3	66.2	82.7
3	94.2	89.8	104.4	89.6	93.5	99.3	78.2	80.9	105.2
4	89.8	91.2	99.6	93.1	90.4	96.0	80.4	69.6	84.6
5	91.4	93.4	104.2	93.9	85.4	110.0	81.0	69.7	84.8
6	191.8	185.3	163.3	193.5	260.6	184.2	99.4	229.2	207.7
7	135.2	145.7	198.9	145.6	121.7	153.1	154.3	90.3	104.1
8	101.2	104.7	113.8	106.8	90.9	110.1	100.8	73.8	90.1
9	90.8	92.0	103.6	94.4	89.7	97.0	76.6	71.1	86.4
10	91.3	92.4	106.0	94.9	98.9	97.7	76.4	67.8	87.0
11	95.6	96.6	108.5	98.2	92.3	113.6	77.3	67.6	91.8
12	264.2	255.6	313.8	257.0	271.8	278.2	194.2	261.5	285.3

(注) (1) 規模30人以上の事業所。 (2) 名目賃金指数。

資料：県統計課

(3) 毎月勤労統計調査の対象事業所の抽出替えとそれに伴う指数補正のため平成3年1月分以後については、6月に公表となる。

4. 産業別雇用指数

(昭和60年=100)

年 月	調査産業計		建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業・飲食店	金融・保険業	サービス業
	サービス業を含む	サービス業を除く							
昭和62年	105.5	103.0	96.1	104.4	102.8	100.3	100.9	99.1	114.8
63	106.9	103.8	95.4	104.8	101.1	105.8	101.8	95.0	118.7
平成元年	109.4	106.1	97.2	106.9	98.7	111.2	104.7	96.7	121.8
元.12	110.0	106.7	99.0	106.9	97.3	116.2	105.0	96.9	122.2
2. 1	109.6	106.4	99.6	106.6	97.9	116.3	104.1	94.9	121.6
2	109.4	106.1	99.7	106.3	97.7	116.9	103.4	94.3	121.5
3	109.3	106.3	98.5	106.2	97.4	119.6	103.4	94.3	120.9
4	112.3	109.3	99.8	109.5	97.8	120.5	106.7	99.0	123.6
5	112.0	108.8	96.6	109.2	97.1	121.1	106.7	95.6	123.7
6	112.1	109.0	96.4	109.2	97.0	121.0	107.4	96.0	123.7
7	111.8	108.8	95.1	109.1	96.6	120.8	107.6	95.8	123.2
8	111.4	108.4	95.1	108.5	96.2	120.6	107.3	95.4	123.0
9	111.3	108.2	94.1	108.5	97.5	120.3	106.2	94.8	123.0
10	111.3	108.2	94.2	108.4	96.4	120.2	107.1	94.8	122.8
11	111.6	108.6	97.1	108.8	96.4	119.8	107.7	94.7	122.8
12	111.5	108.5	96.9	108.7	96.1	119.2	109.4	91.4	122.7

(注) (1) 規模30人以上の事業所。

資料：県統計課

(2) 毎月勤労統計調査の対象事業所の抽出替えとそれに伴う指数補正のため平成3年1月分以後については、6月に公表となる。

5. 産業別労働時間（総実労働時間）

(単位：1人1ヵ月当たり、時間)

年 月	調査産業計		建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業・飲食店	金融・保険業	サービス業	所定内労働時間 調査産業計 (サービス業を含む)
	サービス業を含む	サービス業を除く								
昭和62年	175.7	178.6	190.5	179.8	167.8	192.8	162.7	162.7	165.8	159.0
63	178.8	180.5	185.1	182.4	172.3	190.9	163.8	167.3	173.4	160.3
平成元年	176.3	178.2	181.0	179.7	169.5	190.8	165.6	155.7	170.1	157.4
元.12	179.9	183.9	186.9	186.7	167.9	193.0	170.1	153.4	167.0	159.9
2. 1	157.4	158.7	153.2	157.4	171.1	177.8	155.4	140.0	153.5	140.6
2	172.4	175.2	176.9	178.6	165.0	182.4	157.9	147.2	163.4	153.7
3	172.1	174.1	183.6	175.7	164.3	185.9	157.6	152.8	165.9	152.7
4	183.0	186.1	184.8	191.2	172.8	188.4	164.6	158.7	173.2	163.8
5	162.2	161.9	163.6	159.7	163.9	182.5	154.6	159.2	163.1	144.6
6	185.0	186.9	189.5	190.6	166.9	195.4	163.0	168.1	179.1	166.2
7	180.6	183.5	190.3	185.8	171.0	194.5	164.4	164.8	171.4	161.6
8	158.9	161.9	168.3	158.8	174.8	185.9	154.1	158.3	149.5	141.6
9	178.3	180.8	180.0	186.1	161.9	186.8	156.2	149.1	170.5	159.0
10	174.9	175.5	183.7	177.7	168.5	188.9	151.0	163.4	173.1	155.6
11	177.5	180.5	186.7	183.6	180.7	195.7	151.0	160.6	168.0	157.7
12	174.7	179.1	182.8	182.5	165.5	190.5	156.2	153.1	160.8	155.1

(注) (1) 規模30人以上の事業所。

資料：県統計課

(2) 毎月労働統計調査の対象事業所の抽出替えとそれに伴う指標補正のため平成3年1月分以後については、6月に公表となる。

6. 職業紹介状況

(単位：件)

年 月	一 般 職 業 紹 介 (パートタイムを含まない)						
	新規求人件数(A)	新規求職申込件数(B)	有効求人件数(月平均)(C)	有効求職者数(月平均)(D)	就職件数	新規求人倍率(A/B)	有効求人倍率(C/D)
昭和62年	92 563	69 432	21 255	23 149	23 345	1.33	0.92
63	114 152	60 838	27 049	20 203	21 948	1.88	1.34
平成元年	126 896	53 986	29 662	18 600	20 031	2.35	1.59
2. 3	11 573	5 114	33 719	17 609	1 898	2.26	1.91
4	10 591	5 765	32 112	18 388	1 718	1.84	1.75
5	11 279	4 701	31 346	18 588	1 680	2.40	1.69
6	11 832	3 999	31 782	17 926	1 490	2.96	1.77
7	12 444	4 255	34 097	17 918	1 535	2.92	1.90
8	11 722	4 383	34 587	17 971	1 530	2.67	1.92
9	13 305	4 127	35 800	17 851	1 729	3.22	2.01
10	12 635	4 379	36 079	17 905	1 665	2.89	2.02
11	10 291	3 249	34 585	16 616	1 460	3.17	2.08
12	9 985	2 671	31 558	15 148	1 112	3.74	2.08
3. 1	13 602	4 847	32 569	16 267	1 365	2.81	2.00
2	12 383	4 425	34 517	16 898	1 575	2.80	2.04
3	10 821	4 415	34 878	17 312	1 655	2.45	2.01

(注) 学卒・日雇・パートタイムは除く。

資料：県職業安定課

7. 農産物の平均販売価格

(単位:円)

年度・月	うるち米 (自由売) (玄米60kg)	生乳 (飲用10kg)	鶏卵 (10kg)	豚肉 (生体10kg)	肉用牛 去勢肥育 和牛・若齢 生体10kg	乳子牛 めす、生後 6ヵ月 ホルスタイン 純種	ブロイラー (生体10kg)
昭和62年度	19 918	939	1 527	3 416	14 245	91 264	2 072
63	20 435	936	1 511	3 297	14 127	95 481	1 933
平成元年度	20 918	936	1 903	3 091	13 977	99 319	1 985
2. 3	21 000	909	2 215	2 821	13 665	99 500	2 050
4	21 000	919	1 775	3 570	13 525	101 000	2 083
5	21 000	920	1 938	3 491	13 985	101 000	2 133
6	21 000	923	1 752	3 567	14 127	101 000	2 117
7	21 000	936	1 822	3 790	13 478	100 500	2 167
8	21 000	936	1 955	3 865	13 127	100 500	2 267
9	20 167	936	2 315	3 417	13 878	100 500	2 250
10	20 167	953	2 360	2 767	14 167	100 500	2 333
11	20 167	953	2 385	2 590	14 944	100 500	2 317
12	20 167	926	2 525	2 758	14 542	100 500	2 417
3. 1	20 167	926	2 060	2 930	14 483	97 500	2 350
2	20 167	926	2 610	2 997	14 048	97 500	2 350
3	20 167	926	2 870	3 075	14 075	97 500	2 317

年 月	だいこん (1kg)	にんじん (1kg)	はくさい (1kg)	キャベツ (1kg)	ねぎ (1kg)	とまと (1kg)	きゅうり (1kg)	ピーマン (1kg)	レタス (1kg)
昭和62年	68	84	33	64	126	224	196	321	173
63	76	89	57	80	195	239	227	327	206
平成元年	73	96	42	54	249	275	224	270	152
2. 3	93	72	70	80	117	343	380	739	291
4	131	184	112	100	206	482	286	421	262
5	112	289	93	77	297	303	183	267	129
6	54	179	42	52	252	191	102	215	64
7	74	102	78	77	183	185	126	204	97
8	111	127	111	80	196	269	308	266	204
9	93	172	98	79	213	236	233	275	173
10	74	198	52	101	204	325	339	428	265
11	71	141	39	66	193	393	355	356	339
12	76	92	40	84	121	518	594	424	332
3. 1	106	99	83	171	129	504	418	852	439
2	125	105	127	211	125	443	293	842	405
3	152	175	199	187	189	364	269	606	338

(注) (1) 価格は、それぞれの主産地における生産者販売価格である。
(2) 野菜は、水戸市公設地方卸売市場の卸売価格による。
(3) 年(度)価格は、年(度)の加重平均値である。

資料: 農林水産省茨城統計情報事務所(TEL0292-31-2266)
水戸市公設地方卸売市場(TEL0292-26-2331)

8. 鉱工業指標(季節調整済指数)

1. 生産指標

(昭和60年=100)

年月	鉱工業	鉱工業指標											石油・石炭製品工業
		製造工業	鉄鋼業	非鉄金属業	金屬品工業	機械工業	一般機	電気機	輸送機	精密機	窯業・土石製品工業	化学工業	
	ウエイト												
	10 000.0	9 993.5	861.2	455.0	484.8	4 449.1	1 898.8	2 116.1	236.0	198.2	692.8	794.0	126.8
昭和62年	106.2	106.2	103.4	118.1	107.2	102.0	97.8	109.4	76.3	93.4	109.8	127.4	102.6
63	113.9	113.9	112.9	120.7	121.3	113.9	108.6	123.0	82.5	104.1	113.8	128.2	108.9
平成元年	120.4	120.4	116.4	130.7	135.2	118.2	113.2	126.6	88.5	111.3	117.5	150.3	113.4
2.2	122.9	123.0	112.7	136.4	119.9	123.2	125.0	124.0	83.2	130.9	118.3	156.4	117.3
3	126.9	126.9	114.5	138.0	143.2	127.1	127.5	126.2	98.1	154.9	122.8	168.9	113.7
4	122.6	122.6	113.2	139.3	135.3	120.3	114.6	128.3	101.8	110.0	122.9	160.8	124.1
5	126.4	126.5	122.0	149.7	139.1	120.3	115.1	126.8	95.8	113.8	123.7	182.7	112.1
6	128.9	128.9	122.3	140.6	147.1	127.2	122.6	136.8	95.2	121.1	132.9	171.6	109.1
7	128.1	128.1	122.4	141.8	158.7	124.2	125.0	125.1	103.5	120.7	128.0	177.0	107.7
8	126.0	126.0	116.4	147.4	175.3	118.4	112.6	122.6	111.4	120.7	115.8	172.5	141.1
9	124.9	125.0	119.6	130.1	172.8	120.8	110.0	134.0	88.3	127.1	121.2	165.6	146.3
10	127.7	127.8	115.3	134.2	172.7	121.1	121.5	128.7	82.0	112.4	123.0	185.4	131.0
11	128.7	128.8	127.2	138.3	167.3	126.9	123.9	137.2	76.5	114.5	123.0	160.6	131.5
12	128.5	128.5	121.8	140.5	168.4	128.4	128.9	134.1	79.7	119.5	117.6	161.2	123.6
3.1	r 129.9	r 129.9	126.1	r 152.4	169.9	r 122.4	129.5	124.4	r 77.1	r 118.7	r 124.1	r 175.7	128.8
2P	131.4	131.5	116.7	145.2	160.1	131.3	136.1	133.3	67.6	127.5	120.6	180.7	120.9
対前月増減率 (%)	1.1	1.2	△7.4	△4.7	△5.7	7.3	5.0	7.2	△12.3	7.4	△2.8	2.8	△6.2
対前年同月増減率 (%)	6.9	6.9	3.6	6.4	33.5	6.6	8.9	7.5	△18.7	△2.6	2.0	15.5	3.0

年月	鉱工業指標										鉱業	公益事業	産業総合
	製造業	工業	業	その他	工業	ゴム製品工業	皮革製品工業	家具工業	木材・木製品工業	その他製品工業			
	ウエイト												
	451.7	181.3	192.5	955.8	348.5	107.6	26.0	52.5	109.5	52.9	6.5	1 082.6	11 082.6
昭和62年	107.3	110.2	99.6	106.6	96.8	95.6	101.6	80.8	105.2	95.2	86.3	97.9	105.4
63	116.3	121.4	96.2	99.4	110.0	117.6	104.0	121.2	105.0	96.9	91.6	99.9	112.5
平成元年	125.7	127.6	96.3	103.2	115.6	136.4	103.2	116.4	103.6	103.3	87.1	118.3	120.2
2.2	127.4	131.4	97.6	104.1	113.0	141.7	106.9	99.1	94.6	108.3	91.2	118.9	122.3
3	127.4	127.0	99.2	104.3	118.3	140.8	119.9	99.4	103.9	112.8	84.8	118.2	126.4
4	117.8	129.8	94.6	104.2	114.5	141.9	106.2	91.4	104.8	103.5	89.3	111.6	121.7
5	124.6	132.2	91.6	112.4	108.6	113.4	102.9	98.0	105.7	109.9	64.1	124.6	125.9
6	129.3	137.5	89.8	107.1	107.0	120.1	115.1	89.2	100.3	113.3	79.6	139.8	130.2
7	124.9	134.1	89.8	104.9	111.4	127.3	109.3	100.0	101.5	125.5	82.9	147.3	129.9
8	125.7	136.4	92.8	111.9	111.2	122.3	109.2	105.5	106.1	104.3	131.2	141.0	127.7
9	122.5	137.1	87.0	101.4	107.3	131.9	105.0	98.5	95.2	94.9	85.6	131.7	126.1
10	127.2	136.1	88.6	106.5	112.0	138.6	102.3	102.5	102.0	97.8	86.5	107.7	126.4
11	137.0	142.6	85.7	105.7	111.5	135.8	101.2	105.7	100.6	103.2	76.4	111.7	125.2
12	131.6	135.1	83.2	108.3	109.5	136.5	98.0	98.5	99.8	96.3	84.3	97.6	126.0
3.1	130.4	137.8	84.6	116.8	r 110.7	r 139.1	98.9	r 88.5	106.8	81.0	143.8	113.9	r 128.6
2P	129.5	133.7	86.1	108.3	105.0	133.2	108.1	80.2	102.0	77.2	83.2	114.3	129.4
対前月増減率 (%)	△0.6	△3.0	1.9	△7.3	△5.2	△4.3	9.3	△9.4	△4.5	△4.6	△42.2	0.3	0.6
対前年同月増減率 (%)	1.7	1.7	△11.7	4.1	△7.1	△6.0	1.1	△19.1	7.9	△28.7	△8.8	△3.9	5.8

(注) 年指数及び対前年同月増減率は原指数による。
昭和60年基準改定後の指数である。

資料：県統計課

8. 鉱工業指數（季節調整済指數）

2. 出荷指數

(昭和60年=100)

年月	鉱工業	鉱工業指數											化学生産業	石油・石炭製品工業
		製造工業	鉄鋼業	非金属工業	金属工業	品工業	機械工業	一般機械	電気機械	輸送機械	精密機械	窯業・土石製品工業		
	ウエイト													
	10 000.0	9 996.2	875.9	539.8	365.6	3 933.8	1 498.6	2 026.6	244.7	163.9	441.1	872.9	589.7	
昭和62年	107.9	107.9	102.8	115.6	111.3	105.3	103.6	111.1	75.8	93.1	111.3	118.1	113.2	
63	115.8	115.8	113.4	118.4	124.7	118.7	115.5	127.7	77.6	99.1	118.0	123.2	120.9	
平成元年	122.6	122.6	119.2	125.6	135.1	124.2	117.5	135.7	80.3	108.4	121.1	141.6	127.8	
2. 2	127.4	127.4	117.9	141.2	146.0	125.4	132.2	125.4	76.0	126.6	117.8	151.2	141.2	
3	130.6	130.6	119.0	136.0	162.7	131.6	141.4	128.3	85.1	153.4	125.5	154.1	139.2	
4	125.3	125.3	124.5	133.3	138.9	124.1	114.7	135.2	93.2	107.5	127.6	152.0	128.0	
5	128.6	128.6	120.7	141.8	155.7	123.1	119.3	131.5	86.2	109.0	129.6	163.5	129.2	
6	130.5	130.6	127.4	139.7	158.0	131.4	129.7	142.2	86.0	114.0	138.7	136.7	134.0	
7	127.6	127.6	126.7	135.1	171.4	122.6	119.0	131.7	93.0	114.9	136.1	157.0	131.9	
8	127.5	127.6	118.5	139.2	176.1	124.4	132.9	124.1	97.6	113.1	120.4	156.3	144.4	
9	128.7	128.7	120.9	128.3	174.4	128.2	117.9	140.6	80.8	116.6	127.4	146.7	158.4	
10	130.2	130.2	127.2	134.2	176.3	126.5	119.9	137.2	70.3	108.8	132.8	163.3	134.9	
11	128.3	128.3	117.1	130.7	182.4	129.3	125.1	142.5	65.4	109.1	124.0	148.4	128.6	
12	130.2	130.2	130.3	133.7	164.6	134.3	134.6	142.5	68.5	116.6	119.0	151.0	127.7	
3. 1	r 126.2	r 126.1	r 133.0	r 148.1	r 154.2	r 119.5	119.7	128.2	r 64.8	r 111.9	r 123.3	r 157.5	139.5	
2P	126.3	126.3	124.6	149.2	148.6	121.6	116.7	131.7	58.1	124.0	125.5	163.3	130.9	
対前月増減率 (%)	0.1	0.2	△6.4	0.7	△3.6	1.7	△2.5	2.8	△10.3	10.8	1.8	3.7	△6.1	
対前年同月増減率 (%)	△0.8	△0.8	5.7	5.7	1.8	△3.1	△11.7	5.1	△23.5	△2.1	6.5	7.9	△7.3	
年月	鉱工業指數											鉱業	公益事業	産業総合
	製造工業	鉄鋼業	非金属工業	金属工業	品工業	機械工業	一般機械	電気機械	輸送機械	精密機械	窯業・土石製品工業			
	ウエイト													
	511.6	246.2	77.1	1 282.4	260.1	79.0	20.2	45.6	87.3	28.0	3.8	899.6	10 899.6	
昭和62年	108.1	111.6	97.7	106.9	97.1	93.9	103.0	83.3	106.5	95.4	81.5	98.0	107.1	
63	118.2	124.2	91.8	95.6	114.5	123.0	105.8	131.5	105.3	97.7	121.2	100.0	114.5	
平成元年	126.4	129.8	91.7	99.4	122.1	150.9	107.5	118.7	106.6	105.6	116.1	118.3	122.2	
2. 2	130.4	136.9	98.2	113.6	117.1	156.2	114.7	103.8	95.4	105.5	110.9	118.9	126.7	
3	130.4	138.6	92.4	106.0	120.3	151.1	117.9	101.3	102.3	104.2	115.9	118.2	129.7	
4	126.3	135.4	88.1	105.0	121.8	157.9	110.7	104.8	106.2	107.1	115.8	111.7	124.3	
5	129.4	143.6	89.2	110.9	114.2	121.3	103.6	117.0	108.6	109.6	85.5	124.5	128.3	
6	132.3	134.9	85.6	103.9	111.0	127.0	112.7	110.8	101.4	108.2	115.9	139.7	131.7	
7	128.9	140.7	91.3	101.7	121.9	136.8	125.1	118.7	107.3	106.8	133.7	147.1	128.9	
8	126.4	139.6	84.5	106.3	112.7	127.0	108.8	112.2	102.3	111.1	183.6	140.8	128.5	
9	128.3	145.3	86.5	99.2	115.0	140.6	108.9	111.0	99.2	102.8	125.0	131.7	128.8	
10	133.6	135.1	85.7	103.4	119.5	151.2	98.8	113.8	106.9	97.7	113.9	107.8	128.6	
11	141.3	140.4	83.1	103.1	116.0	144.5	103.1	109.0	107.9	93.8	113.9	111.7	126.7	
12	136.8	135.4	80.9	105.1	112.0	145.6	93.6	99.5	104.9	97.0	118.4	97.6	127.3	
3. 1	131.4	138.5	86.5	106.3	117.0	r 149.3	106.2	106.1	105.0	82.3	210.5	113.8	r 125.3	
2P	133.7	136.5	88.6	102.6	112.6	144.4	114.4	98.3	103.9	79.3	114.8	114.2	125.4	
対前月増減率 (%)	1.8	△1.4	2.4	△3.4	△3.8	△3.3	7.8	△7.3	△1.1	△3.6	△45.5	0.3	0.0	
対前年同月増減率 (%)	2.6	△0.3	△9.8	△9.7	△3.8	△7.6	△0.3	△5.3	8.9	△24.8	3.5	△3.9	△1.1	

(注) 年指数及び対前年同月増減率は原指数による。
昭和60年基準改定後の指標である。

資料：県統計課

8. 鉱工業指標（季節調整済指数）

3. 在庫指標

(昭和60年=100)

年月	鉱工業	鉱工業指標										化学生産業	石油・石炭製品工業	
		製造工業	鉄鋼業	非金属工業	金属製品業	機械工業	一般機械	電気機械	輸送機	精密機械	窯業・土石製品工業			
ウエイト														
		10 000.0	9 998.5	1 293.5	667.2	405.2	3 220.2	2 022.0	1 065.3	6.5	126.4	981.2	985.6	415.9
昭和62年		88.1	88.0	107.8	80.1	99.6	78.7	77.4	85.3	120.3	40.4	96.1	85.4	118.3
63		95.1	95.1	131.6	89.3	107.5	84.0	91.1	75.1	97.0	43.7	95.6	90.6	121.3
平成元年		109.0	109.0	145.0	125.4	137.6	96.0	100.2	92.4	63.6	60.0	102.7	100.9	127.6
2.2		111.8	111.8	159.1	106.8	139.9	94.1	98.3	91.2	81.6	65.4	110.6	98.4	133.7
3		109.8	109.8	157.5	106.0	138.7	93.3	92.1	102.8	75.2	46.8	112.8	97.6	115.5
4		111.8	111.8	151.5	113.3	151.9	99.6	100.0	103.2	87.9	51.6	110.6	92.0	139.8
5		110.0	109.9	145.6	114.8	149.9	100.1	98.1	109.9	73.3	56.0	110.3	93.8	120.3
6		111.9	111.9	143.9	110.6	144.4	100.2	100.8	101.3	69.7	69.4	111.2	102.6	139.6
7		111.2	111.2	144.2	110.9	142.7	102.5	107.6	98.3	57.8	65.8	109.2	103.3	113.5
8		112.8	112.8	152.5	120.5	143.9	100.1	101.3	102.9	60.5	62.9	109.8	98.0	133.9
9		109.8	109.7	147.9	113.7	152.1	92.4	89.3	102.6	72.6	57.0	109.9	104.7	131.6
10		106.5	106.4	143.0	114.8	155.6	87.7	86.5	91.1	50.7	69.5	105.0	102.9	122.7
11		110.7	110.6	153.0	110.1	153.3	94.1	95.6	92.1	61.7	100.5	107.7	97.9	151.5
12		110.2	110.2	145.3	113.3	159.8	94.4	90.5	102.7	59.2	91.5	110.8	93.4	149.7
3.1	r	114.7	r 114.7	141.7	r 121.9	169.6	97.9	94.2	109.5	70.0	86.3	r 117.0	95.1	148.7
2P		115.9	115.8	140.2	117.0	171.8	106.7	111.1	103.3	53.0	84.9	118.8	95.2	127.5
対前月増減率(%)		1.0	1.0	△1.1	△4.0	1.3	9.0	17.9	△5.7	△24.3	△1.6	1.5	0.1	△14.3
対前年同月増減率(%)		3.6	3.6	△11.9	9.6	22.8	13.4	13.0	13.2	△35.0	29.9	7.3	△3.2	△4.6

年月	鉱工業指標										鉱業	公益事業	産業総合
	製造工業					工業							
年月	プラスチック製品工業	パルプ・紙・紙加工品工業	織維工業	食料品・たばこ工業	その他工業	ゴム製品工業	皮革製品工業	家具工業	木材・木製品工業	その他製品工業	鉱業	公益事業	産業総合
ウエイト													
	536.8	218.6	124.6	901.4	248.3	44.4	6.5	75.6	55.3	66.5	1.5	—	10 000.0
昭和62年	107.6	102.6	88.5	57.0	92.8	111.7	150.2	86.0	75.3	96.9	350.6	—	88.1
63	114.3	100.3	91.0	57.5	110.6	132.9	149.7	87.6	123.8	107.2	133.5	—	95.1
平成元年	130.0	119.6	99.9	66.1	131.1	126.4	132.4	166.6	106.9	113.9	225.7	—	109.0
2.2	137.1	133.1	93.0	78.5	131.3	120.2	94.6	176.4	99.3	118.3	302.7	—	111.8
3	136.8	120.6	101.0	80.6	142.1	122.2	94.0	193.4	110.6	124.6	253.6	—	109.8
4	130.1	117.4	107.0	78.9	138.3	117.6	91.7	182.0	111.7	122.9	309.7	—	111.8
5	126.6	109.1	108.7	77.2	133.0	109.4	111.6	177.6	111.9	120.6	269.4	—	110.0
6	124.3	119.3	107.4	79.7	132.6	115.8	138.4	169.8	114.6	122.8	245.0	—	111.9
7	123.5	115.9	98.2	74.6	129.1	118.2	102.0	157.6	102.8	131.7	191.9	—	111.2
8	124.5	114.9	103.2	77.8	133.9	121.5	110.6	162.7	112.8	133.2	204.7	—	112.8
9	122.8	110.1	99.9	71.5	133.4	125.3	109.4	161.4	107.9	132.3	201.2	—	109.8
10	119.7	113.4	99.6	73.3	135.6	125.9	137.4	161.9	103.6	130.7	271.1	—	106.5
11	119.2	120.2	97.0	74.1	132.8	122.0	142.0	162.5	92.5	136.6	271.4	—	110.7
12	116.5	123.1	95.2	64.5	135.9	122.4	175.2	169.8	91.0	139.0	250.7	—	110.2
3.1	120.4	126.4	92.1	104.2	r 137.7	127.6	158.2	164.5	100.1	r 140.3	253.5	—	r 114.7
2P	124.0	126.9	80.8	91.8	132.6	127.0	131.2	151.8	100.2	144.5	292.3	—	115.9
対前月増減率(%)	3.0	0.4	△12.2	△11.9	△3.7	△0.5	△17.1	△7.7	0.1	3.0	15.3	—	1.0
対前年同月増減率(%)	△9.5	△4.6	△13.1	16.9	1.0	5.7	38.6	△13.9	0.9	22.2	△3.4	—	3.6

(注) 年指数及び対前年同月増減率は原指数による。

昭和60年基準改定後の指標である。

在庫の年指数については年末の指標である。

資料：県統計課

9. 産業別電力消費量

(単位: 千kWh)

年度・月	総 数	農林・水産 養 殖 業	鉱 業	建 設 業	製 造 業	運 通 信 業	電 气・ガス 水 道 業	そ の 他 の 産 業
昭和62年度	8 377 213	15 555	14 114	27 187	7 057 281	196 978	215 990	850 108
63	8 782 872	17 942	14 057	29 110	7 380 031	207 690	222 100	911 943
平成元年度	9 479 781	21 115	13 908	31 339	8 017 291	212 453	232 599	951 072
2. 3	827 430	1 484	1 192	2 930	693 639	17 684	18 551	91 950
4	837 853	1 748	1 343	3 190	707 023	17 221	19 368	87 960
5	863 722	1 937	1 101	3 018	732 057	17 491	19 920	88 198
6	895 979	1 759	1 151	3 125	758 574	17 364	20 025	93 881
7	909 158	2 000	1 197	3 198	765 093	18 991	21 158	97 521
8	847 338	2 347	1 176	3 165	722 292	19 944	22 162	76 251
9	879 356	2 630	1 168	2 768	765 350	19 186	21 753	66 500
10	884 696	2 181	1 182	2 930	776 404	18 343	20 022	63 634
11	874 354	1 850	1 167	2 833	758 650	17 878	19 754	72 222
12	858 370	1 837	1 198	2 943	740 221	19 304	20 198	72 670
3. 1	810 603	2 225	1 152	2 769	699 396	20 323	21 079	63 658
2	861 964	1 761	1 169	3 350	732 880	18 670	19 668	84 465
3	873 559	1 646	1 202	2 958	752 138	19 092	19 395	77 128

(注) 数値は東京電力茨城支店の50kW以上の電力販売量である。
なお、東電以外の自家発電は含まれない。

資料：東京電力茨城支店 (TEL 0292-25-1511)

10. 石油製品販売量

(単位: kℓ)

年 月	総 量	揮 発 油	ナ フ サ	ジェット 燃 料	灯 油	軽 油	重 油	う ち A 重 油
昭和62年	8 879 523	1 135 242	1 682 949	94 697	627 336	723 734	4 615 565	453 182
63	9 666 668	1 202 633	1 751 901	96 069	683 088	790 253	5 142 724	571 391
平成元年	10 047 478	1 227 117	1 832 528	92 294	677 479	863 735	5 355 325	619 647
元. 12	1 053 542	119 195	161 582	2 873	109 627	85 770	574 495	75 395
2. 1	1 052 313	99 524	146 501	8 342	106 769	67 084	624 093	70 103
2	1 032 583	92 101	158 183	7 462	96 267	71 192	607 378	69 191
3	989 882	109 115	147 266	22 834	71 674	87 738	551 255	71 619
4	763 101	101 275	182 165	—	45 479	76 524	357 658	49 547
5	852 012	106 032	249 328	—	33 091	72 957	390 604	42 441
6	728 028	105 004	51 668	7 300	30 779	77 191	456 086	42 014
7	990 219	111 126	151 400	9 779	30 129	82 839	604 946	42 939
8	961 837	128 283	125 103	6 455	35 583	78 503	587 906	45 519
9	936 504	105 984	146 977	8 242	41 531	82 871	550 899	45 924
10	886 884	107 582	162 659	11 427	41 453	80 191	483 572	46 671
11	817 253	103 659	148 026	9 785	43 429	80 811	431 543	49 103
12	912 327	123 494	148 010	3 632	89 205	87 569	460 413	68 143

(注) 石油製品製造・輸入業者22社(昭和53年23社)の販売業者向および消費者向販売量の計。

資料：茨城県石油商業組合

(TEL 0292-24-2421)

11. 金融機関別実質預金・貸出残高

(単位：億円)

年 月	総額		銀行		相互銀行		信用金庫	
	預金	貸出	預金	貸出	預金	貸出	預金	貸出
昭和62年末	71 396	35 933	40 470	19 946	7 080	4 930	7 632	4 303
63	78 953	40 820	44 804	23 131	8 033	5 498	8 520	4 897
平成元年末	89 323	48 003	59 857	33 851	—	—	9 787	5 932
2. 2	87 798	48 144	59 123	33 908	—	—	9 748	5 981
3	93 429	50 197	64 619	35 614	—	—	9 843	6 157
4	91 259	49 478	62 259	34 780	—	—	9 919	6 161
5	90 264	48 986	61 157	34 163	—	—	9 946	6 166
6	94 088	50 802	64 379	35 717	—	—	10 150	6 273
7	94 784	51 121	64 655	35 869	—	—	10 329	6 354
8	95 018	51 639	64 818	36 175	—	—	10 411	6 470
9	98 034	52 948	67 343	37 136	—	—	10 596	6 666
10	95 554	52 700	64 775	36 860	—	—	10 518	6 677
11	96 770	53 347	65 940	37 386	—	—	10 550	6 769
12	100 036	54 833	67 757	38 468	—	—	10 959	6 998
3. 1	97 183	54 317	65 704	38 059	—	—	10 786	6 958
2	97 112	54 897	65 650	38 464	—	—	10 841	7 065

年 月	信用組合		農協		漁協		その他	
	預金	貸出	預金	貸出	預金	貸出	預金	貸出
昭和62年末	5 475	3 842	8 572	1 604	110	96	2 058	1 211
63	5 993	4 329	9 252	1 565	117	97	2 234	1 303
平成元年末	6 856	5 100	10 262	1 599	126	97	2 435	1 425
2. 2	6 851	5 162	9 535	1 584	123	93	2 418	1 415
3	6 923	5 282	9 488	1 604	147	95	2 409	1 445
4	7 007	5 358	9 523	1 624	128	93	2 424	1 461
5	7 028	5 435	9 574	1 664	130	93	2 430	1 464
6	7 184	5 557	9 690	1 677	165	91	2 520	1 487
7	7 219	5 651	9 864	1 683	179	87	2 539	1 478
8	7 252	5 716	9 801	1 691	185	86	2 552	1 503
9	7 386	5 808	9 977	1 710	187	85	2 543	1 544
10	7 358	5 828	10 179	1 705	188	86	2 536	1 545
11	7 387	5 874	10 111	1 669	185	91	2 525	1 560
12	7 610	6 013	10 897	1 682	182	97	2 631	1 575
3. 1	7 480	5 976	10 419	1 672	189	96	2 606	1 555
2	7 485	6 007	10 339	1 683	186	98	2 611	1 580

(注) 平成元年2月1日より相互銀行は普通銀行に転換された。

資料：日本銀行水戸事務所 (TEL 0292-24-2734)

12. 県内金融経済

年 月	国 庫 金 (億円)		銀 行 券 (億円)		手 形 交 換 高 (千枚)	不 渡 手 形 (枚)	信 用 保 証 (件)	
	受 入	支 払	發 行	還 収			保 証 承 諾	代 位 弁 治
昭和62年	9 893	10 687	8 196	7 965	2 205	8 806	21 943	576
63	10 822	11 044	8 739	8 348	2 157	6 554	21 687	414
平成元年	12 050	11 136	9 369	8 858	2 036	4 055	21 844	295
2 . 2	637	459	684	555	160	238	1 424	11
3	1 222	2 300	867	571	155	208	2 217	40
4	1 418	2 308	1 108	708	161	240	1 249	9
5	1 453	758	601	1 226	193	291	1 587	14
6	1 177	1 323	1 206	661	146	121	2 356	6
7	1 274	465	603	921	199	269	2 017	4
8	952	436	651	822	168	252	1 656	11
9	1 174	1 269	682	614	139	158	1 908	14
10	938	624	733	702	187	367	1 685	9
11	1 025	1 203	608	603	160	229	1 922	17
12	1 479	1 073	2 221	596	181	205	3 479	18
3 . 1	1 334	429	390	1 986	158	200	1 211	21
2	748	439	674	604	155	199	1 654	18

資料：日本銀行水戸事務所 (TEL 0292-24-2734)

13. 企業倒産状況

(単位：件、百万円)

年 月	総 数		建 設 業		製 造 業		卸・小 売 業		そ の 他	
	件 数	負 債 額	件 数	負 債 額	件 数	負 債 額	件 数	負 債 額	件 数	負 債 額
昭和62年	81	21 433	32	6 738	16	3 135	25	10 855	8	705
63	71	11 109	18	2 545	18	2 887	30	4 735	5	942
平成元年	46	16 124	11	3 007	8	1 170	23	11 417	4	530
2 . 3	4	440	—	—	—	—	4	440	—	—
4	5	407	2	22	—	—	3	385	—	—
5	4	225	1	80	1	60	1	50	1	35
6	7	670	2	130	2	150	1	160	2	230
7	2	120	—	—	—	—	1	70	1	50
8	2	110	—	—	—	—	2	110	—	—
9	5	2 570	1	80	1	80	1	60	2	2 350
10	4	175	1	20	1	30	2	125	—	—
11	6	1 070	—	—	1	500	4	120	1	450
12	4	180	—	—	—	—	2	100	2	80
3 . 1	4	580	1	100	—	—	3	480	—	—
2	6	1 090	2	130	1	180	—	—	3	780
3	4	680	—	—	1	100	1	200	2	380

(注) 負債額1千万円以上。

資料：東京商工リサーチ水戸支店 (TEL 0292-24-2741)

14. 家計主要指標（水戸市・全国）

(単位：円、%)

年 月	勤 労 者 世 帯								全 世 帯		(6) 消 費 者 物 價 指 數
	実 収 入	(1) 可 处 分 所 得	消費 支 出	(2) 黒 字	貯蓄 純 増	(3) 平均 消費 性 向	(4) 実質 実收 入 指 數	(4) 実質 消費 支 出 指 數	消費 支 出	(5) エン ゲル 係 数	

水 戸 市

昭和62年	485 092	407 093	323 456	83 637	53 026	79.5	106.8	108.6	308 488	22.9	100.3
63	490 317	412 052	312 476	99 576	68 239	81.5	107.3	104.3	294 561	23.3	100.9
平成元年	505 502	429 115	332 924	95 740	74 511	85.1	108.3	109.0	309 668	21.7	102.8
2 . 1	401 456	335 343	321 104	14 238	5 438	95.8	85.5	104.3	301 643	21.7	103.7
2	372 216	311 386	278 347	33 039	4 410	89.4	79.1	90.1	265 229	26.7	103.9
3	444 800	374 500	345 934	28 566	8 226	92.4	94.2	111.9	320 429	22.3	104.2
4	471 965	379 158	318 975	60 183	92 519	84.1	99.1	102.3	317 074	22.0	105.1
5	386 943	302 221	347 115	△44 893	△34 106	114.9	80.3	109.9	330 436	21.9	106.4
6	840 214	695 719	387 400	308 319	262 795	55.7	175.7	123.6	375 687	18.3	105.6
7	558 721	466 920	323 964	126 893	154 621	72.8	116.7	103.3	323 964	21.6	105.7
8	435 628	359 154	318 856	40 298	26 537	88.8	90.9	101.5	300 082	24.9	105.8
9	444 413	356 432	354 085	2 347	△10 297	99.3	91.7	111.5	318 035	22.8	107.0
10	452 037	352 046	336 303	15 743	△12 705	95.5	92.2	104.6	321 088	22.6	108.3
11	451 823	367 930	337 373	30 557	49 928	91.7	92.1	105.0	327 535	21.2	108.3
12	1 431 939	1 227 051	493 545	733 505	619 887	40.2	292.5	153.8	549 405	17.9	108.1
3 . 1	410 478	330 948	374 113	△43 166	△20 883	113.0	83.5	116.2	352 020	18.8	108.5

全 国

昭和62年	460 613	387 314	295 915	91 399	54 683	76.4	103.3	102.0	280 944	26.1	100.2
63	481 250	405 938	307 204	98 733	60 676	81.0	107.4	105.4	291 122	25.5	100.7
平成元年	495 849	421 435	316 489	104 946	69 978	75.1	108.3	106.1	299 350	25.3	103.0
2 . 1	385 947	323 690	311 562	12 129	14 095	96.3	83.3	103.4	294 518	22.7	104.1
2	414 586	349 586	285 714	63 872	25 663	81.7	89.3	94.5	269 941	25.7	104.4
3	439 293	369 755	357 003	12 752	△5 272	96.6	94.2	117.7	357 003	23.3	104.8
4	426 091	348 480	335 490	12 989	4 579	96.3	90.6	109.6	318 552	23.7	105.7
5	408 312	323 224	310 980	12 244	△1 565	96.2	86.3	101.0	298 501	26.7	106.4
6	701 914	595 133	310 861	284 272	210 474	52.2	149.3	101.6	291 366	26.2	105.7
7	627 171	532 404	353 414	178 990	147 033	66.4	133.5	115.6	322 760	24.7	105.6
8	455 300	384 387	322 946	61 441	22 097	84.0	96.5	105.1	303 953	26.7	106.1
9	404 770	338 100	307 974	30 126	11 992	91.1	84.9	99.2	286 991	27.3	107.2
10	427 250	359 190	314 770	44 420	17 417	87.6	88.4	100.0	301 857	26.6	108.7
11	414 026	346 995	303 178	43 817	805	87.4	86.0	96.8	289 041	26.7	108.2
12	1 156 424	1 015 517	465 243	550 274	446 999	45.8	241.0	148.9	424 085	25.0	107.9
3 . 1	407 983	342 597	325 913	16 684	17 302	95.1	84.2	103.4	308 419	23.0	108.9

(注) (1) 実収入－非消費支出
(3) 消費支出÷可処分所得
(5) 食料費÷消費支出
(2) 可処分所得－消費支出
(4) 当該項目(60年=100)÷消費者物価指数
(6) 昭和60=100, 持家の帰属家賃を省く総合

資料：総務庁統計局

15. 1カ月1世帯当たりの実収入および実支出 (水戸市、勤労者世帯)

(単位:世帯, 人, 歳, 円)

年 月	集 計	世 帯 世帯数	有 業 人 員	世帯主 の年齢	実 収 入	勤め先 収 入			その他の 実 収 入	実 支 出	消費支出 計
							うち 世帯主	妻			
昭和62年		65	3.80	1.55	43.4	485 092	457 864	404 398	50 694	27 227	401 455
63		65	3.65	1.51	43.9	490 317	465 295	414 940	44 661	25 023	390 741
平成元年		60	3.63	1.53	43.8	505 502	476 567	423 988	48 508	28 935	409 762
2. 1		65	3.71	1.58	42.2	401 456	374 531	337 486	30 461	26 924	387 217
2		67	3.54	1.57	41.8	372 216	368 577	331 689	31 651	3 639	339 176
3		66	3.59	1.56	42.3	444 800	419 388	383 022	29 396	25 412	416 234
4		64	3.61	1.61	42.6	471 965	425 143	386 112	30 225	46 822	411 782
5		65	3.58	1.52	41.7	386 943	377 360	352 768	22 411	9 583	431 837
6		64	3.48	1.53	42.1	840 214	820 163	761 208	55 146	20 050	531 895
7		63	3.49	1.57	41.8	558 721	533 958	496 734	30 474	24 762	431 827
8		63	3.56	1.62	43.1	435 628	407 717	373 793	27 993	27 910	395 329
9		61	3.49	1.69	43.7	444 413	435 540	377 189	49 729	8 873	442 066
10		61	3.48	1.70	43.7	452 037	437 240	379 509	44 443	14 797	436 294
11		61	3.51	1.84	45.3	451 823	428 793	360 311	55 981	23 029	421 266
12		59	3.56	1.83	43.8	1 431 939	1 374 888	1 142 614	200 762	57 051	698 434
3. 1		62	3.47	1.73	43.2	410 478	389 834	324 752	58 444	20 644	453 644
											374 113

年 月	実 支 出										非消費 支 出	
	消 費 支 出											
	食 料	住 居	光熱・ 水道	家 具・ 家事用品	被服及び 履 物	保健医療	交通通信	教 育	教 養	その他の 消費支出		
昭和62年	72 424	12 543	14 301	15 294	23 550	8 361	37 981	11 460	27 905	99 637	77 998	
63	69 490	14 878	14 168	12 935	24 134	6 146	31 419	11 256	32 780	95 271	78 265	
平成元年	69 685	17 577	13 540	11 611	25 024	7 816	32 428	12 229	33 688	109 778	76 386	
2. 1	69 221	14 355	16 214	11 276	22 659	6 334	26 914	20 697	37 400	96 035	66 113	
2	63 644	16 381	18 542	18 230	17 491	11 564	24 704	10 503	25 840	71 447	60 830	
3	71 286	17 205	15 724	13 176	21 198	1 885	29 035	40 736	31 570	98 333	70 299	
4	67 891	15 252	14 586	7 603	28 187	7 128	31 681	15 857	31 957	98 833	92 807	
5	69 090	22 963	14 118	13 408	19 874	8 124	79 262	9 785	27 140	83 350	84 722	
6	69 343	24 579	12 186	11 640	31 334	10 555	92 081	8 117	30 623	96 943	144 495	
7	67 184	18 545	10 816	14 270	27 872	10 050	50 728	7 236	29 456	103 870	91 801	
8	71 174	17 998	13 174	14 469	17 098	7 936	37 417	5 063	34 487	100 040	76 474	
9	71 185	17 055	12 478	18 805	23 041	6 186	73 511	6 831	24 740	100 253	87 981	
10	71 384	27 801	13 382	10 002	26 177	6 452	38 129	17 815	27 996	97 165	99 991	
11	68 837	13 906	14 224	11 774	26 496	15 059	66 573	6 604	25 007	88 893	83 893	
12	91 086	27 100	17 244	20 008	46 901	9 284	37 841	6 348	55 480	182 253	204 888	
3. 1	67 926	16 578	19 500	11 869	31 419	14 627	61 000	13 212	31 786	106 196	79 530	

資料：総務庁統計局

16. 消費者物価指数(水戸市)

(昭和60年=100)

年 月	総 合	対前年	対前年	食 料	穀 類	魚 介 類	肉 類	野 菜 ・ 海 草	外 食	住 居
		(月) 上昇率 (%)	(月) 上昇率 (%)							
昭和62年	100.3	0.0	—	99.5	101.1	98.7	94.7	103.3	103.3	104.9
63	100.9	0.6	—	100.3	100.1	98.0	92.3	116.9	103.8	107.9
平成元年	102.8	1.9	—	102.3	101.4	97.1	94.2	115.7	107.6	109.3
2. 3	104.2	0.3	3.5	104.0	102.5	98.4	90.9	125.1	109.0	110.6
4	105.1	0.9	2.2	104.4	102.6	96.2	91.5	124.0	109.4	115.1
5	106.4	1.2	2.4	106.5	102.6	104.6	91.6	129.3	110.2	115.2
6	105.6	△ 0.8	1.7	104.5	102.5	93.4	95.0	113.0	110.2	115.7
7	105.7	0.1	2.5	104.4	103.4	95.1	94.6	113.7	110.2	119.2
8	105.8	0.1	3.1	105.3	103.4	95.5	95.3	123.0	110.2	119.3
9	107.0	1.1	3.3	107.5	103.5	99.8	97.6	125.7	110.7	119.7
10	108.3	1.2	3.8	109.6	104.3	100.0	97.7	137.6	110.7	119.7
11	108.3	0.0	4.4	108.4	105.4	103.1	97.7	133.9	110.7	119.7
12	108.1	△ 0.2	4.0	107.1	105.8	99.2	97.3	127.8	110.7	119.8
3. 1	108.5	0.4	4.8	109.7	105.8	102.7	96.8	145.8	110.7	119.8
2	108.0	△ 0.5	3.9	109.9	106.4	99.8	96.2	147.2	111.3	120.0
3	108.2	0.2	3.8	109.8	106.0	98.8	96.9	144.7	111.3	120.4

年 月	光熱・ 水道	家具・ 家事用品	被服及び 履物	保 健 医 療	交 通 通 信	自動車等 関係費	教 育	教 娛	養 樂	諸 雜 費	生鮮食品 を除く 総 合
昭和62年	89.6	100.3	102.6	103.0	100.5	98.0	108.2	100.6	102.7	100.8	
63	86.7	100.2	103.8	102.7	99.7	96.8	111.8	101.7	103.1	101.0	
平成元年	86.5	100.2	105.8	104.7	101.3	97.6	114.4	105.5	104.9	102.9	
2. 3	87.8	99.7	106.0	104.6	102.7	99.4	115.1	108.1	106.6	103.9	
4	87.8	99.9	109.2	105.3	102.5	99.5	121.1	108.9	106.6	104.9	
5	89.4	99.6	112.3	105.3	102.5	99.5	121.1	109.4	106.5	105.5	
6	89.4	99.5	112.1	105.6	102.4	99.5	121.1	109.2	106.5	105.6	
7	89.7	99.0	110.6	105.6	102.4	99.5	121.1	109.5	107.6	105.7	
8	89.6	98.7	106.2	105.6	102.5	99.4	121.1	111.1	107.6	105.5	
9	89.8	99.1	113.0	105.5	102.5	99.6	121.1	109.3	107.6	106.4	
10	91.7	99.2	114.4	105.5	103.9	102.0	121.1	109.5	107.6	106.9	
11	92.8	99.9	114.7	105.7	105.6	103.3	121.1	109.8	107.6	107.4	
12	92.8	99.9	116.1	105.7	105.5	103.1	121.1	110.5	107.6	107.7	
3. 1	92.9	99.5	111.2	105.3	105.3	102.8	121.1	111.1	107.6	107.3	
2	92.2	99.8	106.7	104.1	104.8	101.9	121.6	111.6	107.9	106.9	
3	91.7	99.7	109.4	104.1	104.6	101.4	121.6	111.3	108.1	107.4	

(注) (1) 水戸市の指數は、後日総務庁統計局が公表する指數と異なる場合もある。
 (2)「総合指數」は、持家の帰属家賃を除く総合指數である。

資料：県統計課

17. 卸売物価指数（国内）

(昭和60年=100)

年 月	総 平 均	対前月	対前年	食 料 品	製 材・ 木 製 品	鉄 鋼	化 学 製 品	石 油・ 石 炭 製 品	電 力・ 都 市 ガ ス・ 水 道
		上 昇 率 (%)	(同月) 上 昇 率 (%)						
昭和62年	92.3	—	△ 3.0	97.8	106.6	91.8	90.1	64.9	89.0
63	91.9	—	△ 0.4	97.2	105.0	94.2	89.9	61.6	84.0
平成元年	93.6	—	1.7	98.4	111.8	97.8	91.4	64.9	81.1
2. 2	94.2	0.1	2.3	98.8	116.1	98.8	91.7	70.4	79.4
3	94.3	0.1	2.3	98.7	116.4	98.7	91.6	70.7	79.4
4	94.4	0.1	0.7	99.3	116.5	98.7	90.9	71.0	79.4
5	94.5	0.1	0.6	99.5	117.5	98.7	90.8	71.0	79.6
6	94.5	0.0	0.5	100.1	118.6	98.9	91.1	71.0	79.6
7	94.9	0.4	0.5	100.6	118.5	99.3	91.1	71.2	83.1
8	95.1	0.2	0.6	101.4	117.5	99.5	91.4	71.2	83.1
9	95.6	0.5	1.0	102.0	117.5	99.6	91.7	76.1	83.1
10	95.9	0.3	1.7	101.8	116.8	99.8	94.0	82.0	79.6
11	96.2	0.3	2.1	102.2	116.2	100.1	96.3	84.1	79.6
12	96.3	0.1	2.2	102.4	116.9	100.1	97.1	82.4	79.6
3. 1	96.5	0.2	2.6	102.2	116.8	100.2	97.5	81.0	79.6
2	96.5	0.0	2.4	102.9	117.4	100.2	97.8	79.2	79.6

資料：日本銀行調査統計局

18. 生活保護

(単位：世帯， %, 人)

年度・月	被 保 護 世 帯	被 保 護 実 人 員	保 護 率	生 活 扶 助 人 員	住 宅 扶 助 人 員	教 育 扶 助 人 員	医 療 扶 助 人 員	そ の 他 扶 助 人 員
昭和62年度	7 254	12 469	4.5	10 448	6 713	2 194	8 373	14
63	6 849	11 510	4.1	9 633	6 311	1 963	7 769	11
平成元年度	6 585	10 780	3.8	8 975	6 002	1 730	7 422	7
2. 3	6 472	10 512	3.7	8 672	5 874	1 659	7 238	29
4	6 359	10 260	3.6	8 473	5 732	1 607	7 019	8
5	6 362	10 167	3.6	8 417	5 663	1 544	7 046	2
6	6 303	10 035	3.5	8 300	5 594	1 500	7 111	1
7	6 293	9 986	3.5	8 271	5 561	1 475	7 061	5
8	6 237	9 867	3.5	8 110	5 476	1 457	7 004	2
9	6 205	9 790	3.4	8 114	5 425	1 437	6 989	5
10	6 179	9 754	3.4	8 023	5 417	1 429	6 938	2
11	6 143	9 693	3.4	7 980	5 398	1 416	6 798	2
12	6 150	9 680	3.4	7 953	5 389	1 403	6 812	3
3. 1	6 127	9 710	3.4	7 931	5 368	1 407	6 867	7
2	6 089	9 582	3.4	7 859	5 349	1 396	6 860	19
3	6 117	9 595	3.4	7 837	5 349	1 392	6 869	56

(注) (1) 停止中も含む
(2) 保護率＝被保護実人員÷毎月推計人口
(3) その他は、生業、出産、葬祭扶助である。

資料：県社会福祉課

19. 消費生活相談

(単位：件)

年 月	受付 件 数	内 容 別 相 談 件 数 (延)													
		安 全 衛 生	役務品質 品機 質能	法 規 基 準	価 格 料 金	計 量 量 目	表 示 広 告	販 売 方 法	契 約 (解約)	接 対 客 応	包 装 器	施 設 備	買 物 相 談	生 活 知 識	
昭和62年	4 779	166	508	31	145	5	39	787	1 603	385	3	5	959	1 023	264
63	4 249	103	348	6	133	3	42	755	1 314	365	1	—	538	1 157	313
平成元年	3 856	100	307	14	218	1	83	741	1 116	406	—	1	396	1 382	382
2 . 3	300	9	29	2	25	—	9	77	95	47	—	—	31	107	23
4	296	14	24	—	27	—	19	88	98	45	—	1	28	97	21
5	210	8	27	2	20	—	13	78	93	36	—	—	19	40	14
6	357	15	40	2	35	—	17	93	124	62	—	—	32	106	36
7	319	15	34	—	32	—	16	82	97	54	—	—	32	105	24
8	315	15	41	3	26	2	15	86	99	68	—	—	24	104	26
9	318	8	21	2	26	—	13	76	93	51	—	—	26	99	34
10	339	10	43	3	30	1	7	71	104	53	1	—	23	110	37
11	333	25	52	3	33	2	11	86	122	58	—	—	19	107	23
12	247	9	31	1	19	—	8	62	86	38	—	—	18	87	17
3 . 1	254	5	22	2	36	1	8	58	79	43	1	—	21	87	23
2	276	5	22	—	35	2	13	86	103	44	—	—	16	83	27
3	294	9	18	1	21	0	5	68	90	36	1	—	28	105	31

資料：県消費生活センター (TEL 0292-24-4722)

20. 建築主別建築着工

(単位：千m²，百万円)

年 月	総 数		建 築 主				個 人			
			官 公 庁		会社その他の法人					
	床 面 積	工事費予定額	床 面 積	工事費予定額	床 面 積	工事費予定額	床 面 積	工事費予定額	床 面 積	工事費予定額
昭和62年	5 845	668 220	422	63 531	2 138	252 578	3 285	352 111		
63	6 705	817 323	448	78 442	2 946	359 545	3 312	379 336		
平成元年	7 531	1 045 697	544	98 618	3 559	531 573	3 430	415 506		
2 . 2	597	88 922	50	7 236	285	48 468	262	33 217		
3	644	103 892	48	6 263	284	58 417	311	39 212		
4	570	75 771	19	3 210	245	34 140	306	38 421		
5	821	129 835	27	4 479	465	61 694	329	43 662		
6	834	122 497	28	5 875	486	75 225	319	41 397		
7	863	125 814	151	26 650	369	55 735	342	43 429		
8	690	102 637	52	9 436	354	56 357	284	36 843		
9	688	102 398	28	6 030	379	58 133	281	38 235		
10	735	112 234	37	8 753	361	58 030	337	45 452		
11	650	110 095	84	20 702	270	50 975	296	38 419		
12	712	113 839	37	9 062	359	63 419	316	41 358		
3 . 1	529	75 717	29	5 380	248	36 608	251	33 729		
2	673	110 715	39	8 113	363	65 032	271	37 570		

(注) 官公庁とは、国、県、市町村を加えたものである。

資料：建設省建設経済局

21. 着工新設住宅（利用関係別）

(単位：戸、m²)

年 月	総 数		持 家		貸 家		給 与 住 宅		分 譲 住 宅	
	戸 数	床 面 積	戸 数	床 面 積	戸 数	床 面 積	戸 数	床 面 積	戸 数	床 面 積
昭和62年	31 319	2 926 378	16 494	2 071 906	10 617	469 430	382	33 541	3 826	351 501
63	34 889	3 146 683	16 013	2 008 432	13 428	614 266	694	44 468	4 754	478 517
平成元年	37 282	3 397 648	15 532	2 027 692	15 181	726 807	630	49 278	5 939	593 871
2 . 2	3 165	292 624	1 227	160 312	1 106	58 434	84	5 748	748	68 130
3	3 396	315 931	1 400	185 796	1 308	64 572	34	2 711	654	62 852
4	3 510	313 828	1 375	184 759	1 581	70 193	24	1 985	530	56 891
5	3 819	347 330	1 473	199 244	1 403	63 119	100	6 706	843	78 261
6	3 499	314 517	1 409	187 409	1 363	63 327	53	2 773	674	61 008
7	3 969	358 584	1 484	199 256	1 626	83 057	163	10 803	696	65 468
8	3 418	321 308	1 289	169 162	1 452	82 033	68	4 101	609	66 012
9	3 326	295 690	1 253	165 185	1 416	64 588	17	1 916	640	64 001
10	4 329	359 041	1 526	204 187	1 783	70 556	75	5 287	945	79 011
11	3 599	307 614	1 269	167 894	1 593	74 984	63	3 540	674	61 196
12	4 173	350 653	1 303	171 604	1 767	78 927	148	10 784	955	89 338
3 . 1	3 017	272 742	1 163	150 240	1 059	50 095	114	6 861	681	65 546
2	3 240	290 769	1 214	158 410	1 062	49 068	48	3 599	916	79 692

資料：建設省建設経済局

22. レジャー状況

(単位：円、件、人、台)

年 月	勤労者世帯 (水戸市)		旅券発行件数 (観光訪問・その他) (個人的目標)	大洗水族館 利 用 者 数	筑 波 パ ー ブ ル ラ イ ン 利 用 台 数							
	外 食 費	教養娯楽費 (印刷物・施設観覧料・旅行費等)			筑 波 ス カ イ ラ イ ン			表筑波スカイライン				
					二 輪 車	乗 用 車	バ ス・そ の 他	乗 用 車	そ の 他			
昭和62年	13 103	27 905	53 426	※550 183	※14 260	※220 836	※7 099	※222 214	※17 949			
63	13 383	32 780	68 767	※593 459	※13 001	※226 341	※6 757	※229 917	※17 944			
平成元年	13 097	33 688	80 586	※724 466	※11 622	※234 103	※6 687	※235 866	※17 710			
2 . 2	10 833	25 840	6 428	27 037	355	9 453	123	8 392	716			
3	12 093	31 570	7 061	51 339	995	19 525	262	18 377	1 343			
4	10 299	31 957	7 620	52 075	836	18 794	615	18 975	1 311			
5	10 291	27 140	9 133	101 868	1 271	26 266	1 513	27 859	2 087			
6	11 809	30 623	9 047	41 224	1 044	16 295	756	14 958	1 169			
7	11 482	29 456	8 871	58 603	944	16 681	483	14 783	1 073			
8	11 888	34 487	8 887	127 126	1 426	32 472	435	28 276	1 706			
9	10 935	24 740	7 889	41 243	901	20 750	454	21 955	1 637			
10	10 441	28 451	8 378	31 960	1 032	22 154	972	24 918	1 942			
11	12 162	30 634	7 296	35 600	816	25 616	704	32 202	1 968			
12	16 724	55 480	7 106	15 984	590	13 012	163	11 030	956			
3 . 1	14 206	31 786	7 331	38 376	537	19 765	147	19 857	1 411			
2	4 326	33 372	420	13 670	157	12 467	928			

(注) (1)「外食」「教養娯楽」は、抽出調査によるため対象は水戸市内の少數世帯に限られている。

(2) 筑波スカイライン利用台数は風返し料金所を通過したもの。
また貨物、路線バスも含まれる。

(3) ※は年度数値。

資料：総務省統計局 県国際交流課

大洗水族館(T E L 0292-67-5151)
県道路公社(T E L 0292-26-1280)

23. 交通事故発生件数

(単位：人、件)

年 月	発生件数	死 者	負 傷 者	原 因 别 発 生 件 数							
				安 全 運 転 義 務 違 反			酒 酔 い	最 高 速 度 違 反	追 越 し	徐 行	一 時 停 止 違 反
				わ き 見 方 前 不 視	安 全 速 度	ハ ン ド ル プ レ キ 操 作 不 適 当					
昭和62年	12 727	351	16 227	5 600	976	380	241	461	215	703	850
63	13 152	390	16 942	6 122	931	399	255	448	187	673	864
平成元年	14 022	462	18 100	7 333	907	424	151	259	185	689	839
2 . 3	1 138	35	1 422	570	80	40	5	22	8	38	84
4	1 144	42	1 517	587	62	44	14	25	8	63	65
5	1 184	43	1 512	634	64	31	14	25	14	57	69
6	1 187	25	1 525	605	61	32	16	27	11	56	85
7	1 271	37	1 670	629	84	42	18	26	17	74	92
8	1 356	43	1 782	726	73	42	12	27	15	71	96
9	1 102	32	1 448	585	60	47	7	26	15	46	60
10	1 419	50	1 797	770	72	36	12	35	22	54	73
11	1 260	45	1 583	702	60	37	21	25	16	61	60
12	1 415	45	1 755	760	75	43	21	40	17	56	80
3 . 1	999	28	1 243	567	56	26	12	29	7	33	52
2	1 084	28	1 359	557	57	41	7	36	16	32	73
3	1 112	33	1 456	596	73	35	10	36	9	35	46

(注) 原因別発生件数はうち書のため、その計は発生件数と一致しない。

資料：県警察本部交通企画課

24. 自動車保険請求相談

(単位：件)

年 月	総 数			自 賠			保 障			任 意		
	被 害 者	加 害 者	そ の 他	被 害 者	加 害 者	そ の 他	被 害 者	加 害 者	そ の 他	被 害 者	加 害 者	そ の 他
昭和62年	790	363	350	330	232	286	8	1	5	360	80	19
63	722	319	502	258	179	392	26	3	14	317	63	26
平成元年	700	356	516	250	213	367	19	2	11	353	90	43
2 . 3	58	24	43	32	13	26	1	1	—	24	6	1
4	49	24	40	40	18	20	3	—	—	5	5	2
5	74	34	53	61	22	31	1	1	—	11	11	2
6	71	30	55	33	16	28	4	1	1	33	13	14
7	72	36	61	35	14	35	1	—	1	34	21	17
8	68	33	51	28	15	29	3	—	—	36	15	11
9	82	29	43	36	14	27	3	—	2	41	15	2
10	87	25	35	28	9	20	3	—	1	56	16	2
11	72	40	23	25	25	20	2	—	—	45	14	1
12	62	29	21	24	14	21	—	—	—	38	15	—
3 . 1	63	23	35	26	13	18	2	—	2	35	10	3
2	78	34	30	38	15	20	1	2	—	39	17	3
3	75	36	43	28	16	23	9	—	—	38	19	6

(注) (1) 自賠、保障、任意はうち書のため総数と合計は一致しない。

資料：日本損害保険協会水戸自動車

(2) 自賠=自動車損害賠償責任保険。保障=政府保障事業で、保険によらず直接運輸大臣あて請求するもの(無保険・引き逃げ)。任意=民間の保険。

保険請求相談センター

(TEL 0292-26-1693)

25. 刑法犯罪発生件数

(単位: 件)

年 月	総 数 (認知件数)	凶 惡 犯	粗 暴 犯	窃 盗	知 能 犯	風 俗 犯	そ の 他
昭和62年	30 223	132	791	26 940	1 899	132	329
63	29 666	126	813	26 622	1 753	78	274
平成元年	30 047	168	899	27 003	1 543	88	346
2 . 3	2 292	8	63	2 003	197	1	20
4	2 200	11	42	2 051	66	3	27
5	2 421	9	61	2 228	80	18	25
6	2 429	4	74	2 251	76	6	18
7	2 354	11	55	2 179	70	10	29
8	2 376	9	66	2 237	41	4	19
9	2 491	9	53	2 303	95	5	26
10	2 381	14	71	2 182	64	7	43
11	2 414	14	93	2 180	84	2	41
12	2 409	12	58	2 207	90	8	34
3 . 1	1 912	10	45	1 800	41	2	14
2	2 063	11	45	1 905	70	13	19
3	2 274	9	55	2 160	19	5	26

資料：県警察本部刑事総務課

26. 火災発生件数

(単位: 件, 世帯, 人, 棟)

年 月	発生件数	罹災世帯数	罹災人員数	死 傷 者 数		焼損棟数	焼 損 面 積		損害額 (千円)
				死 者	負 傷 者		建 物 (m ²)	林 野 (a)	
昭和62年	1 622	688	2 361	50	138	1 250	53 613	4 991	3 946 261
63	1 723	775	2 641	65	175	1 396	62 179	1 777	5 508 949
平成元年	1 457	671	2 197	42	130	1 166	51 042	6 374	3 315 851
2 . 3	224	82	273	6	24	138	4 570	227	345 361
4	109	57	191	1	10	94	5 585	56	412 917
5	117	64	193	1	14	106	5 252	109	396 406
6	83	47	163	—	10	70	2 625	—	230 405
7	104	58	191	—	11	114	10 779	8	248 240
8	151	54	150	3	18	95	5 192	395	553 904
9	109	33	106	1	4	54	2 768	16	229 478
10	84	53	178	8	16	87	4 295	—	398 823
11	94	68	177	7	15	89	3 557	—	364 895
12	158	87	216	5	25	122	4 116	115	413 612
3 . 1	182	73	202	5	17	137	5 319	155	268 310
2	275	71	177	—	10	128	5 536	1 133	339 166
3	253	102	252	6	23	184	7 747	733	1 145 421

資料：県消防防災課

平成3年度主要統計研修等実施計画

統計調査の資質向上と統計思想の普及高揚を図るため、統計関係者及び統計教育の指導者を対象に各種研修会を実施します。県及び中央で実施さ

れるそれぞれの研修のねらいを熟知され、多くの方々が参加されることを期待しております。詳細については決定しだいご案内する予定です。

平成3年度主要統計研修等実施計画一覧

主催機関名	研修名	実施予定期	実施予定期間	対象者	内容	備考
茨 城 県	統計グラフ作成指導者講習会	3.6.19 24 25	1日	小・中学校の教職員及び市町村職員	統計グラフの指導者としての知識及び技術を習得する。	県内3地区で開催
	統計調査員研修会	3.5.27 ～3.5.28	2日	統計調査員	統計調査員の実務的な研修。	
	地方統計職員業務研修会基礎専門	3.6.26 ～3.6.27 3.7.2 ～3.7.3	2日 2日	統計事務に従事する市町村及び県職員	統計業務に必要な、基礎的、専門的知識を習得する。	
	統計実務講習会	4.2月中旬	1日	市町村及び県職員	統計業務に必要な実務的知識、及び技術を習得する。	
	統計事務改善研究会	3.12上旬	2日	統計調査員、市町村及び県職員	統計調査に関する諸問題を研究し、その改善をはかる。	
総務庁 統計研修所	本科課程	3.4.10 ～3.9.12 3.10.3 ～4.3.13	6ヵ月	市町村及び県の統計関係職員	研修科目についてできるだけ広範囲をカバーした長期の基礎コース。	年2回開催
	専門課程	4.1.21 ～4.2.28	5週間	〃	基礎的統計知識の要点を短期間に習得する。	
	統計パソコン分析課程	3.5.8 ～3.6.20 3.11.6 ～3.12.19	6週間	〃	パソコン・コンピュータを利用し、統計分析の基礎理論と手法を習得する。	年2回開催
	専門課程	3.7.2 ～3.7.17	2週間	〃	統計グラフ、統計地図の基礎的理論と作成方法等を習得する。	
	研究課程	3.9.18 ～3.10.25	5週間	〃	多変量解析をテーマとした研修。	
	特別講座	4.3.3 ～4.3.6	4日間	市町村及び県の課長補佐・係長級の職員	統計実務に必要な知識を中心とした講座。	
	一般コース	4.3.16 ～4.3.19	4日間	市町村及び県職員	時宜に応じた統計に関する一般的な講座。	
全国統計協会 連合会	一般研修	3.5.13 ～3.5.18	6日	県統計専任職員	統計の理論と応用、統計の作成と利用方法などの知識及び技術を習得する。	
	指導者研修	3.6.11 ～3.6.12	2日	〃	地方統計職員の指導育成に必要な知識及び技術を習得する。	
	統計実務講習会	4.1月中旬	2日	制限なし	統計業務に必要な基礎的知識及び技術を習得する。	
	統計グラフ指導者講習会		4.1下旬	2日	統計グラフの指導者、作成者及び利用者	統計グラフの指導者としての知識及び技術を習得する。
	統計調査員中央研修	4.3	1日	統計調査員及び県職員	統計調査員の実務的な研修。	

(統計課・普及指導グループ)

【新着資料案内】

この資料は、平成3年4月中に行政情報センター・統計資料コーナーに到着した主なものです。ご利用下さい。

行政情報センター 本庁舎地下1階 TEL 0292-21-8111(内線2238・2239)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
中央省庁関係			
総務省統計局刊行物一覧 平成2年	総務省	園芸いばらき振興プラン -新時代をリードする産地育成をめざして-	流通園芸課
青年問題基本統計報告書	〃	平成元年度 水産業協同組合要覧	漁政課
昭和60年 国勢調査報告 第7巻 特別集計結果 その3	〃	茨城県屋外広告物法令集 平成3年1月	都市計画課
平成3年版 1991国民経済計算年報	経済企画庁	平成元年度 茨城県企業局水質年報 第21報	企業局
平成2年版 科学技術白書	科学技術庁	平成2年度 学校保健・学校安全統計資料	保健体育課
平成元年度 国債統計年報	大蔵省		
平成2年度 学校保健統計調査報告書	文部省		
平成元年度 学校基本調査報告書 (高等教育機関編)	〃		
厚生白書 1991	厚生省		
平成元年度 農村物価賃金統計 (付農村消費水準指數)	農林水産省		
ポケット農林水産統計 一平成3年版 1991	〃		
平成元年 漁業・養殖業生産統計年報	〃		
平成2年 茨城の作物統計 (主要作物市町村別統計表)	関東農政局茨城統計事務所		
平成2年版 都市交通年報	運輸省		
平成元年度 関東農政局統計年報	郵政省		
郵政経済活動の現況	〃		
平成元年 毎月勤労統計調査年報	労働省		
公共工事着工統計年度報 第30号 平成元年度	建設省		
茨城県関係			
平成元年度 茨城の自然環境保全地域	環境管理課		
平成元年度 茨城の緑地環境保全地域	〃		
地方公務員災害補償基金茨城県支部規程集	地方公務員災害補償基金		
平成2年度 市町村公営企業財政実態資料	地方課		
茨城県OA化推進基本計画 ROSE-OAをめざして	情報システム課		
茨城県民福祉基本計画(平成3年度~7年度) IBARAKI 21世紀のリーディング県をめざして	企画調整課		
鹿島開発公共事業実績書 平成2年10月	県央・鹿行振興課		
茨城県の水道 平成元年度	医務課		
心くばりある観光地づくり 茨城県観光振興基本計画	観光物産課		
県内市町村関係			
いしかわ'89石岡市勢要覧	石岡市		
しもつま市制施行35周年 下妻市勢要覧'89	下妻市		
平成2年版 統計いわい	岩井市		
花ひらくまち 合併35周年記念阿見町勢要覧'90	阿見町		
統計要覧 昭和63年度	関城町		
協和町第2次総合計画後期基本計画	協和町		
都道府県関係			
昭和63年度 道民経済計算年報	北海道		
昭和63年度 秋田県県民経済計算年報	秋田県		
さいたまの県民経済計算 1988	埼玉県		
石川100の指標 平成2年版	石川県		
山梨県統計年鑑 平成2年刊行	山梨県		
平成元年 工業統計調査結果報告書	島根県		
第35回 広島県統計年鑑 平成元年版	広島県		
平成元年 広島県の工業 (工業統計調査結果報告)	〃		
昭和63年度 県民経済計算年報	徳島県		
かがわ'91県勢一覧	香川県		
香川県統計要覧 1991	〃		
昭和63年度 愛媛県民所得統計 -県民経済活動の大きさとしくみ-	愛媛県		
昭和63年度 福岡県民経済計算報告書	福岡県		
会社・公社・団体等関係			
平成2年 物価指數年報 1990	日本銀行		
平成2年度 茨城県における中小企業 の労働事情	中小企業団体中央会		

経済動向

国内の動き

● 世界一の建設投資国に

建設省が発表した91年度の建設投資見通しによると、名目投資額は前年度比4.7%増の86兆6100億円と、6年連続で過去最高を更新する見込み。これにより日本は欧州共同体(ＥＣ)13カ国の合計投資額(91年の円換算見通し、84兆7000億円)を抜き、世界一の建設投資市場となる。ただ、

● 90年度消費者物価 9年ぶり高い伸び

総務庁の発表した1990年度平均の全国消費者物価指数(85年度=100)は総合で108.0となり、前年度比3.3%上昇した。第二次石油危機後の81年度の4.0%以来、9年ぶりの高い上昇率で、政府の90年度改定経済見通し3.1%を上回った。

● 景気、緩やかに減速

日銀の発表した国内の金融経済動向を分析・展望した情勢判断資料によると、国内景気については住宅投資の鈍化などを認めながらも全体としては減速が緩やかなものにとどまる予想している。物価動向をめぐっては製品・労働需要のひっ迫から「依然注意を怠れない」と指摘、当面の

景気の減速感などを反映して伸び率は大幅に低下しており、同省ではここ数年の建設ブームが一服、建設投資は徐々に巡航速度に入ったとみている。内訳をみると、政府投資が4.6%増の27兆7700億円、民間投資が4.7%増の58兆8400億円となっている。(4月13日付 日経)

同時に発表された4月の東京都区部の消費者物価指数(速報)は総合で111.5となり、前年同月比3.3%、前月比0.4%の上昇で今年に入って上昇率は低下し、経済企画庁は物価は沈静化に向かっていると判断している。

(4月27日付 茨城)

金融政策について物価安定の定着を基軸に据えた政策を続ける姿勢を示している。ただ4~6月期のマネーサプライ(通貨供給量)の伸びを前年同期比4%前後と過去最低の伸びを予想し、一段の金融引き締め効果の浸透を見込んでいる。(4月25日付 日経)

県内の動き

● 大洗鹿島線にリゾート列車

茨城県は来年3月をめどに、水戸市と鹿島町を結ぶ第三セクターの大洗鹿島線に観光客を誘致するためのリゾート列車を導入することを決めた。県が列車を設計、所有して第三セクターに貸し付ける形態をとる方針で、現在、列車

● ハイマート2000 テーマパーク核に6ゾーン

県の茨城ハイマート2000基本構想策定委員会がまとめた調査報告書の素案によると、2000年の開業を目指して、勝田市への立地を検討している未来型複合商業施設「茨城ハイマート2000」の商圏人口を1000万人と想定し、敷地面積は約40ヘクタールを見込んでいる。

のデザインや運行ダイヤなど詳細を詰めている。鹿島灘、霞ヶ浦など自然景観を売り物に利用客を増やし、地元地域の観光振興を図るのが狙い。(4月4日付 日経)

ハイマート全体はテーマパークを核に、高級品や輸入品、乗り物型スポーツ用品を展示販売するスポーツ関連複合ゾーン、海外の一流家具などを扱う住宅関連複合ゾーンなど6つのサブテーマゾーンで構成する。

(4月17日付 茨城)